2019年度 休眠預金活用事業

「パープルエイド・ブルークロス運動」事後評価報告書

【実行団体】特定非営利活動法人TFG

舞い上がれ 社会を変える みんなの力
休眠預金活用事業

人はみな、生かされて生きてゆく。
更生保護ネットワーク

【資金分配団体】更生保護法人 日本更生保護協会
資金分配団体事業名｜安全・安心な地域社会づくり支援事業
事業の種類｜草の根活動支援事業

目次

1．事業概要 …… p.2

実行団体概要 / 助成事業概要
助成事業ロジックモデル

2．事後評価実施概要 …… p.4

（1）実施概要
（2）実施体制

3．事業の実績 …… p.7

3－1　インプット
3－2　活動詳細と支援事例
3－3　活動とアウトプットの実績
3－4　外部との連携の実績

4．アウトカムの分析 …… p.23

4－1　アウトカムの達成度
（1）アウトカムの計画と実績
（2）アウトカムの達成度についての評価
4－2　事業の効率性
4－3　成功要因・課題

5．考察 …… p.33

事業全体を振り返っての考察
（その他深掘り検証項目 / 波及効果 / 提言 / 知見・教訓）

6．結論 …… p.36

6－1　事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価
6－2　事業実施の妥当性

7．資料 …… p.37

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

1. 事業概要

実行団体

特定非営利活動法人ＴＦＧ

団体概要

全国でも数少ない少年専用の更生保護施設を運営している。非行少年以外にも、不登校や引きこもり等の悩みを持つ青少年やその保護者に対して、電話相談、面談相談、宿泊相談やフリースクール事業などを行うことで、青少年の自立を支援している。
※TFGと連携している若年女性支援団体「パープルエイド」も事業に参画している。

解決を目指す社会課題

これまでサポートを行ってきた女子非行少年の多くが、売春や薬物依存などを経験しており、その背景には虐待、貧困、いじめ、性被害などの被害経験（生きづらさ）が存在している。また、近年はパパ活やJKビジネス、家出がSNSの発達により一般化、低年齢化している指摘があり、これらの背景にも同様の問題が存在しているなど、被害経験を持つ若年女性が犯罪につながりやすい傾向がある。

助成事業

事業名

パープルエイド・ブルークロス運動

事業概要

若年女性支援のため繁華街でのアウトリーチ活動を行うパープルエイドでは、つながった若年女性にメールやSNSを活用した相談事業を実施。シェルターを活用した居場所の提供も行う。少年犯罪の未然防止と再犯防止を啓発するブルークロス運動では、基調講演や活動報告を通して若年女性の支援への関心を高め、協力の輪を広げる。

実施期間｜３年（2020.3～2023.3）
対象地域｜福岡県
支援対象｜若年女性

事業終了時の展望（当初案）

パープルエイドでは出口を対象者の「自立」に設定することなく、相談をしたい時に気軽に相談ができるよう、繋がりを重視した関係を築いていく。TFGでは、更生保護施設を退所した少年が支援する側のスタッフとして施設運営に携わる事例が多数ある。本事業でも、各種支援を受けた女性が後に運営スタッフやボランティアスタッフとして関わり続けることが出来る土壌作りを目指す。ブルークロス運動についても啓発が主であるため、出口は特に設定していない。

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

ロジックモデル　【パープルエイド・ブルークロス運動】

中期アウトカム

若年女性がそれぞれに豊かな暮らしを送れるようになる。

短期アウトカム

01
若年女性が継続的なサポートを受けられ，抱えている課題が解決に向かう。

02
地域住民や地域の機関・団体が、若年被害女性の支援の必要性について理解するようになる。

03
若年女性を支援するネットワークが、地域の中に構築され、支援ノウハウの共有が図られる。

04
実行団体の知識・スキルが向上し，福岡以外の地域で同様の若年女性支援を行っている他機関と有機的な連携が図れる。

アウトプット

0101
アウトリーチによって若年女性が団体の存在を知り、サポートを受けている状態。

0201
福岡県内において、パープルエイドとブルークロス運動が連動して実施した啓発、講演会活動により、教育・行政・福祉関係者・地域住民が、若年被害女性の現状や抱えている課題について認知・理解する。

0301
ブルークロス運動の参加者や、パープルエイドの活動を通じてつながった各関係機関が、（仮）若年被害女性支援について考えるネットワークの会員として連携し、迅速なつなぎ支援や活動の発展のための勉強会などが開催できる状態。

0401
福岡以外の他地域で先駆的に女性の支援活動を実践している団体に連絡を取り、情報交換会を行う。

活動

■福岡県内の繁華街でのアウトリーチ活動（声かけ・カード配布等）
■相談支援（電話やメール、LINE）
■シェルターを利用した居場所の提供
■中長期的な住まいの確保やその他必要な支援、就労に繋げる為の同行支援
■活動で得た知見やアンケート調査から、若年女性の”生きづらさ”を把握し、評価指標を作成する。

■若年女性へのアンケート調査
■若年被害女性（家出・売春・自死・自傷・性被害など）に関する文献調査
■若年女性が置かれている現状や社会課題をテーマにした講演会や啓発活動（ブルークロス運動）
■HP等を活用しアンケート調査結果やスタッフの研究レポートを掲載。

■ブルークロス運動参加者への活動報告書送付
■専門機関、専門職を集めたネットワーク会議の開催
■若年女性の支援に関わってくれる専門機関・団体の開拓とネットワークへの参加呼び掛け

■他地域で女性支援活動団体（NPOやボランティア団体等）との情報交換会
■他地域からの相談者について、より具体的な支援に繋げられるよう、繋がりを活かした支援を行う

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

（1） 実施概要

① どんな変化をこの事業の重要なポイントとして設定したか

当団体がこれまでにサポートを行ってきた女子非行少年はその多くが売春や薬物依存などを経験している者であり、その背景には虐待、貧困、いじめ、性被害などの被害経験（生きづらさ）が存在している。また、近年パパ活やJKビジネス、家出がSNSの発達により一般化、また低年齢化している指摘があり、これらもまた女子非行少年と同じように上記の社会問題が背景に存在している。
また、非行少年の社会復帰については、法務省を中心に社会を明るくする運動等を通じて様々な個別の支援や社会へ向けた啓発活動が行われているが、民間レベルでの活動については支援が乏しく、保護司や地域のボランティアなどの善意によって成り立っているところが実情である。
そこで、この事業では、若年女性の生きづらさを解消させること、他の支援団体との連携や活動を広く発信することで社会全体が若年女性の現状に関心を持てるようになることを重要なポイントとして設定した。

② どんな調査で測定したのか

	01	**若年女性が継続的なサポートを受けられ，抱えている課題が解決に向かう。**
短期 アウトカム 01 の評価	（1）調査方法 （2）調査実施時期 （3）調査対象者 （4）分析方法	【 定量調査 】 アンケート調査・選択式（主な項目は、相談内容、改善した点、対応でよくなかった点） 2022年12月～2023年1月 相談を受けた若年女性（事後調査） 12人が回答 事前調査と比較して分析を行った。
	（1）調査方法 （2）調査実施時期 （3）調査対象者 （4）分析方法	【 定量調査 】 アンケート調査・自由記述（主な項目は相談内容、相談経験の有無、属性など） 2021年～2022年 相談を受けた若年女性（事前調査） 事後調査と比較して分析を行った。

Copyright 2023 TFG ※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

② どんな調査で測定したのか

短期 アウトカム 02 の評価	**02**	**地域住民や地域の機関・団体が、若年被害女性の支援の必要性について理解するようになる。**
	（1）調査方法 （2）調査実施時期 （3）調査対象者 （4）分析方法	【　定量調査　】 アンケート調査・選択式（主な項目は、参加後の意識の変化等） 2021年11月、2022年11月 ブルークロスムーブメントの参加者
短期 アウトカム 03 の評価	**03**	**若年女性を支援するネットワークが、地域の中に構築され、支援ノウハウの共有が図られる。**
	（1）調査方法 （2）調査実施時期 （3）調査対象者 （4）分析方法	【　定量調査　】 支援記録 2020年 5 月～2022年12月 当団体が参加したネットワークに関する会議の資料等
	（1）調査方法 （2）調査実施時期 （3）調査対象者 （4）分析方法	【　定性調査　】 エコマップ 2020年3月～2022年12月 本事業開始前から2022年末までの当団体のエコマップ エコマップの変化を分析した
短期 アウトカム 04 の評価	**04**	**実行団体の知識・スキルが向上し，福岡以外の地域で同様の若年女性支援を行っている他機関と有機的な連携が図れる。**
	（1）調査方法 （2）調査実施時期 （3）調査対象者 （4）分析方法	【　定量調査　】 支援記録 2020年5月～2022年12月 支援記録から他機関との連携をおこなっている事例を対象にした。

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

③ 調査結果をどのように深掘りし価値判断をしたのか

アウトカムの成功要因・課題を類似事例と比較し、価値判断を行った。

（２） 実施体制

内部／外部	評価担当役割	氏名	団体・役職
内部	評価担当・全体確認・総括	大西　良	一般社団法人ソーシャルワーク・オフィス福岡・事業責任者
内部	報告書執筆	中山　日向子	一般社団法人ソーシャルワーク・オフィス福岡 ・事業担当者
内部	アンケートの実施	柴田　真生	一般社団法人ソーシャルワーク・オフィス福岡 ・事業担当者

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

3．事業の実績

3-1　インプット（主要なものを記載）

項目	内容・金額	
（1） 人材 （主に活動していたメンバーの人数や役割等）	内部：合計５人（実行団体スタッフ３人、協力団体スタッフ２人）　外部：合計２人（大学研究者：２人）	
（2） 資機材（主要なもの）	ノートパソコン、携帯電話、タブレット	
（3） 経費実績 助成金の合計		
① 契約当初の計画金額	合計　8,958,000　円	事業費：8,538,000円　（内訳　直接事業費：8,277,000円 ／ 管理的経費：261,000円） 評価関連経費：420,000円 コロナ対応緊急支援追加額：　0　円（内訳　直接事業費：　0　円 ／ 管理的経費：　0　円）
② 実際に投入した金額と種類	合計　11,958,000　円	事業費：8,538,000円　（内訳　直接事業費：8,277,000円 ／ 管理的経費：261,000円） 評価関連経費：420,000円 コロナ対応緊急支援追加額：3,000,000円　（内訳　直接事業費：3,000,000円 ／ 管理的経費：0円）
（4） 自己資金		
① 契約当初の自己資金の計画金額	合計　2,150,000　円	事業費：2,150,000円　（内訳　直接事業費：1,070,000円 ／ 管理的経費：1,080,000円）
② 実際に投入した自己資金の金額と種類	合計　2,150,000　円	事業費：2,150,000円　（内訳　直接事業費：1,070,000円 ／ 管理的経費：1,080,000円）
③ 資金調達で工夫した点	TFGの賛助会員及びブルークロス運動のサポート会員の増員。関係各所への寄付金の呼びかけ。 BLUECROSSMOVEMENT開催時の企業への協賛金。	

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

事業を発想したきっかけ

本事業は、パープルエイドのメンバーが、実行団体の特定非営利活動法人TFG（以下、TFG)で女子の非行少年と関わり、その少年の多くが幼少期に虐待、性被害、いじめ等の何らかの被害経験を有して「生きづらさ」を抱えていることを知り、生きづらさを抱えた若年女性を支援することが非行防止につながるのではとの思いからこの事業を発想した。

活動を開始した当初は、アウトリーチ活動、相談支援のみ行っていたが休眠預金を受けさせて頂いたことで、シェルターの開設、ブルークロスムーブメント、他団体とのネットワーク構築の拡充などを行うことができた。

SNSやメールを使った相談支援、同行支援

当団体では、活動当初からSNSやメールを使用して相談支援を行なっている。最初の相談を受けた後は、LINE等ネット上での相談支援を継続するか、シェルターの利用や直接会って相談を受けるなどの対面的な支援に移行するなどの判断を行う。相談支援については、１年以上継続して相談を受けているケースもあれば、単発的に相談に答えるケースなど様々である。主に相談を受けているのはLINEの相談窓口で、相談は午前９時から午後９時まで受け付けており、時間外に相談があった際は緊急の場合を除き翌日以降に相談に答えている。多くの相談者は、漠然とした「生きづらさ」を訴え、その背景には家族関係の不和や対人関係の難しさなどがある場合が多い。

私たちは傾聴の姿勢を示しつつ、時には助言をすることもあるが、相談者が元々持っている強みや、以前よりもできるようになったことなどの「ストレングス」に注目し、相談者自身をエンパワメントしていくことを基本スタンスとしている。

対面的な支援を行うケースは、当団体が管理しているシェルターを利用する場合、行政機関や病院受診などに同行する場合、相談者が対面での支援を希望した場合などである。

具体的な支援事例については次ページにて紹介している。

アウトリーチ活動｜
若年女性が 困ったときに支援に繋がれる関係を作る

街頭でのアウトリーチ活動は、主に福岡市中心部にある公園で月４回から５回行っていて、対象者は若年の女性である。

活動時は、当団体の相談窓口を明記し、裏面に絆創膏を貼り付けた「相談カード」（次ページに写真）を配布している。絆創膏を貼り付けることで、女性達に受け取って貰える割合が高くなり、さらに絆創膏を使用するまでカードを保管してもらえるという利点がある。活動当初は、見た目や雰囲気などが特徴的な女性に声をかけていたが、より多くの女性に知ってもらうため、さらに私たちの話を聞くハードルを下げてもらうために、「友達で困っている人がいればこれを渡してあげて」という声かけの仕方に変更し、若年女性であれば全員に声をかけるよう声かけの方法を変更した。

声をかける際は、見た目や雰囲気などから心配な点がある、もしくは女性が積極的に話をする場合以外はその場で根掘り葉掘り話を聞くことはせず、公園に来ている理由、属性などを口頭で聞き、同時に悩みや相談相手の有無などを尋ねる簡単なアンケートに答えてもらうようにしている。アンケートに答えてもらった後は、お礼としてフェイスマスクや、寒い時期はカイロなどのノベルティを手渡している。

活動を継続することで、「この間はありがとうございました」「まだ持ってますよ」と声をかけてもらえることも増えた。

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

新型コロナウイルスの感染者が増加していた時期は公園自体が閉鎖された事や人出が減少したことから活動を行うことが困難となり、またアンケート調査なども接触時間を減らすために中断するなどしていたが、感染者が落ち着いた時期には回数を増やして多くの女性に声かけを行った。

裏面に絆創膏を貼り付けて配布している「相談カード」

シェルターを活用した保護活動～居場所の提供

繁華街でのアウトリーチの際に、１０代の女性が、援助交際をしようとしているのに出会った。その女性は、親の入院や服役により保護者がいなくなり、ライフラインが止まるなど、自宅での生活が困難な状態になっていた。彼女には、適切な行き先（入所先）が決定するまでのあいだ、生活の本拠となる場所が必要だったので、一時的にホテルに宿泊させ、その後TFGのシェルターで保護しながら、関係団体とともに入所先の調整を行なった結果、児童福祉施設に入所することができた。

このように、繁華街にいる女の子の中には、帰る家がない、家があったとしても帰れない事情を抱えている女の子がいる。そうした子が頼るのはSNSや交際相手が大半で、SNSで知り合った男性の自宅で性被害に遭う子もいれば、交際相手の家で生活していたところ関係が破綻し、また家をなくすという子もいる。

私たちは、この事業で、ＴＦＧのシェルターの一室を確保し、緊急的に保護を必要とする女の子達を保護できる体制を整えた。衣食住が整ったシェルターを利用しつつ、社会保障制度の利用につなげたり、親子間の関係修復に努めたりしている。

支援事例

SNSでの支援事例から～「寂しい」少女たちの話に耳を傾ける

事例１　関東地方に住んでいるという女性から、「死にたい」「寂しい」というメッセージを受けとった。市販薬の過剰摂取が止められず、どうしたらいいか分からないとの相談が主な訴えだったが、精神科病院に通院しているということだったので、希死念慮（死にたくなる気持ち）については、医師の指示に従うように助言し、女性が抱えている日常的な悩みを聞いたり、趣味の話をしたりするなど、女性の寂しさに寄り添う支援を行っている。気持ちが沈む時期には連絡が取れなくなることもあるが、名前を変えて再度相談をしてくるなど、事業開始当初から関わりがある女性である。

事例２　当団体の相談カードを配布した高校に通っている女子生徒から、ＳＮＳで相談を受けた。コロナ禍で授業形態や登下校の方法が変化したことで、それまで仲が良かった友人との関係性も変わってしまい、悩んでいるとの相談であった。

女子生徒は具体的なアドバイスを求めていたことから、共感し傾聴しつつ、時間の経過により友人関係が変化することはお互いにあることや、相手に考えを聞いてみることなどを助言したところ、「ありがとうございます。また相談します。」と話した。その後も人間関係の悩みについて単発的に相談を受けることがある。

このように、相談内容も、相談を受けている期間も様々で、アドバイスを強く求めている女性もいれば、アドバイスよりもただ寄り添ってほしいと話す女性もいる。ネットで相談を受けることで、顔が見えない支援の難しさを感じることもあるが、ネットだからこそ気軽に「死にたい」「寂しい」とSOSを発信できる良さもあると感じている。

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

ブルークロス運動｜若年女性支援の啓発活動

この活動は、犯罪を犯してしまう、再犯傾向がある青少年を排除することなく受け入れていく社会をどのように築いていくのかを社会全体で考えていくキッカケになるよう、司法、教育、福祉機関で働く方々、元非行少年などからの「生の声」を発信する啓発活動である。

本助成事業を受託していた３年間は若年女性支援に焦点を当て、パープルエイドの活動報告や、女性支援を行っている団体の代表者らに登壇していただき、若年女性支援の現状を知って頂く機会を設けた。１年目は、本事業を知らない方にTFGとパープルエイドの活動を紹介する内容として、TFGの施設紹介、若年女性支援の現状を報告した。２年目は、女子専用の自立援助ホーム、母子生活支援施設、パープルエイドの３団体から、それぞれの団体で支援している若年女性の現状を報告する内容で開催した。３年目は、福岡県警で少年育成指導官として延べ2000人以上の非行少年や犯罪被害少年のサポートを行なってこられた堀井さんにご登壇頂き、これまでのご経験から本事業の当初の狙いである「非行少年の背景にある“生きづらさ”をサポートする」ことに焦点を当ててお話しをして頂いた。

過去３回の参加者は、2020年度は50名、2021年度は95人、2022年度は２６人の参加であった。なお、2022年度開催分はYOUTUBEで現在も公開しており、2023年1月現在で視聴回数は108回となっている。

参加者へのアンケートでは、「若年女性支援の必要性がよく理解できた」と回答された方が2021年度、2022年度どちらも8割を超えていた（2020年度はアンケート未実施）。また、活動に協力したいと回答された方に具体的な協力方法を尋ねたところ、2021年度は6割、2022年度は8割の方が「ボランティアで参加したい」と回答され、実際に開催後にアウトリーチ活動に参加して下さる学生ボランティアも増加した。

新型コロナウイルスの流行によって開催が危ぶまれることもあったが、インターネットを活用することで遠方に住んでいる方、インスタグラムを通して知り合った他団体の方にご参加頂くなど、プラスの面も多くあった。

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

BLUECROSS MOVEMENT 2022

ブルークロス ムーヴメント

Vol. 5

THE MAIN SUBJECT !!

オンラインで同時配信

ガールズソーシャルワーク

～生きづらさを生み出す社会の課題とこれからの支援～

INFORMATION:

▲ 11月19日（土） 13:00～15:00（12:30開場）

▲ 早良市民センター（福岡市早良区百道2丁目2番1号）

◎駐車場の台数が限られておりますので、お越しの際は出来るだけ公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせ：0947-45-4355（事務局）

参加無料

SPEAKER:

講師
堀井 智帆（ほりい ちほ）

昭和52年、横浜市に生まれる。
西南女学院大学福祉学科卒業。児童養護施設勤務を経て、平成15年から福岡県警察に入職し、北九州少年サポートセンターなど県内各地の少年サポートセンターで勤務。延べ2,000人の非行少年に向き合う。今年福岡県警察を退職し、現在はスクールカウンセラー、講演会活動などを行いながら子どもの支援を続ける。
著書に『非行少年たちの神様』（青灯社）。

TIME LINE:

12:30	開場
13:00	開会挨拶
13:10	活動報告　パープルエイド 「活動報告～女の子と私たちの3年間とこれから～」
13:45	基調講演　講師：堀井智帆
14:45	閉会挨拶
15:00	終了

主催 BLUECROSS運動実行委員会
tel. 0947-45-4355

共催 特定非営利活動法人 TFG（田川ふれ愛義塾）
一般社団法人 ソーシャルワーク・オフィス福岡

オンラインでの参加ご希望の方はこちらからお申込み下さい

BLUECROSS MOVEMENT FUKUOKA.JAPAN

青少年の生きる社会を
明るく・より良く

私たちは、立ち直り支援の充実・強化を図り、
少年犯罪の未然防止と再犯防止に努めます

2022.11.19

BLUECROSS MOVEMENT

@早良市民センター

ブルークロス運動　チラシ表裏

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

ロジックモデル　【パープルエイド・ブルークロス運動】

中期アウトカム

若年女性がそれぞれに豊かな暮らしを送れるようになる。

短期アウトカム

01
若年女性が継続的なサポートを受けられ，抱えている課題が解決に向かう。

02
地域住民や地域の機関・団体が、若年被害女性の支援の必要性について理解するようになる。

03
若年女性を支援するネットワークが、地域の中に構築され、支援ノウハウの共有が図られる。

04
実行団体の知識・スキルが向上し，福岡以外の地域で同様の若年女性支援を行っている他機関と有機的な連携が図れる。

アウトプット

0101
アウトリーチによって若年女性が団体の存在を知り、サポートを受けている状態。

0201
福岡県内において、パープルエイドとブルークロス運動が連動して実施した啓発、講演会活動により、教育・行政・福祉関係者・地域住民が、若年被害女性の現状や抱えている課題について認知・理解する。

0301
ブルークロス運動の参加者や、パープルエイドの活動を通じてつながった各関係機関が、（仮）若年被害女性支援について考えるネットワークの会員として連携し、迅速なつなぎ支援や活動の発展のための勉強会などが開催できる状態。

0401
福岡以外の他地域で先駆的に女性の支援活動を実践している団体に連絡を取り、情報交換会を行う。

活動

■福岡県内の繁華街でのアウトリーチ活動（声かけ・カード配布等）
■相談支援（電話やメール、LINE）
■シェルターを利用した居場所の提供
■中長期的な住まいの確保やその他必要な支援、就労に繋げる為の同行支援
■活動で得た知見やアンケート調査から、若年女性の”生きづらさ”を把握し、評価指標を作成する。

■若年女性へのアンケート調査
■若年被害女性（家出・売春・自死・自傷・性被害など）に関する文献調査
■若年女性が置かれている現状や社会課題をテーマにした講演会や啓発活動（ブルークロス運動）
■HP等を活用しアンケート調査結果やスタッフの研究レポートを掲載。

■ブルークロス運動参加者への活動報告書送付
■専門機関、専門職を集めたネットワーク会議の開催
■若年女性の支援に関わってくれる専門機関・団体の開拓とネットワークへの参加呼び掛け

■他地域で女性支援活動団体（NPOやボランティア団体等）との情報交換会
■他地域からの相談者について、より具体的な支援に繋げられるよう、繋がりを活かした支援を行う

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

アウトプット 0101 (1/2)	**アウトプット｜アウトリーチによって若年女性が団体の存在を知り、サポートを受けている状態。** 目標達成時期｜①②2021年7月 主な活動（概要）｜■福岡県内の繁華街でのアウトリーチ活動（声かけ・カード配布等）　■相談支援（電話やメール、LINE） ■シェルターを利用した居場所の提供　■中長期的な住まいの確保やその他必要な支援、就労に繋げる為の同行支援 ■活動で得た知見やアンケート調査から、若年女性の”生きづらさ”を把握し、評価指標を作成する。		
指標	**初期値**	**目標値**	**実績値**
①相談カードを配布した数	①150枚/月	①初期値より60枚増加	①初期値より（平均）５２枚増。【目標わずかに未達成】 【配布数】相談カードの１ヶ月の平均配布枚数は２０２枚。合計配布数6,288枚。 【配布枚数が目標値に達成しなかった理由】 本助成を受託後に新型コロナウイルスが流行したことで、主な活動場所である公園が封鎖となったり、外出抑制で人出が減少するなどして、予定していたアウトリーチ活動の回数（月３回）を維持できず、それ以下になった月もあったことがあげられる。
②相談を受け付けた件数	②10件/月	②初期値より5件増加	②メッセージ１ヶ月平均：2020年度60件、2021年度46件、2022年度143件　【目標達成】 【相談件数】 ・メッセージ総数　3016件（LINE 2856件、メール149件、インスタグラム11件） メッセージ受数１ヶ月平均：2020年度60件、2021年度46件、2022年度143件 ・相談者延べ人数141人(LINE 130人、メール10名、インスタグラム１名) 新規相談１ヶ月平均：2020年度2．8人、2021年度3．5人、2022年度5．4人 ・継続相談者数　2020年度５人、2021年度１７人、2022年度３０人 ※2021年度中の継続相談者の３名は一時相談が中断されたものの、2022年度になり相談が再開している。 ※メッセージ受数は、相談者からメッセージを受けた件数 ※継続相談者は２回以上のやり取りを行なっている相談者の数 【評価】活動の縮小により新規相談者の大幅な増加は無かったが、相談者が定着し、継続相談を受けている人の数が増加し、関係が深くなったことでやり取りの数も大幅に増えた。当団体について、継続して相談をしても良い相手として認知してくれた人が増えていると評価できる。

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

アウトプット 0101 (2/2)	**アウトプット｜アウトリーチによって若年女性が団体の存在を知り、サポートを受けている状態。** 目標達成時期｜③2021年1月 主な活動（概要）｜■福岡県内の繁華街でのアウトリーチ活動（声かけ・カード配布等）　■相談支援（電話やメール、LINE） ■シェルターを利用した居場所の提供　■中長期的な住まいの確保やその他必要な支援、就労に繋げる為の同行支援 ■活動で得た知見やアンケート調査から、若年女性の”生きづらさ”を把握し、評価指標を作成する。			
指標	**初期値**	**目標値**	**実績値**	
③「生きづらさの評価指針」策定状況	③「生きづらさの評価指針」なし	③「生きづらさの評価指針」が完成し、活動１から３で活用できる状態になる。	③「生きづらさの評価指標」は作成できていない。 「生きづらさの評価指標」仮案は作成したが、実装していない。 【目標未達成】 【理由・経緯】 指標として内容を固めるために、少女達のアンケートを集める必要があるとこ、ろ「夜間に１８歳未満の女性がいる」「一人で公園内に長時間いる」など、支援の必要性が高く見える女性に対して声かけを行っても、話を始める前に断られることが多く、アンケートへの回答が得られにくかったため、指標の確定に至っていない。 　別の方法として、同様の支援を行っている他団体で既に持っている指標を活用することを検討したが、他団体との連携が難しい状態（当事者と取材以外の個別対応は行わない等）である。 　また、活動を重ねていく中で、指標を作成することで行政的な業務になってしまったり、柔軟性が損なわれたりすることを懸念する意見も出たことから指標を使う意義も含めて再検討をしていく必要があるのではないかと内部で検討中。	

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

アウトプット 0201	**アウトプット｜福岡県内において、パープルエイドとブルークロス運動が連動して実施した啓発、講演会活動により、教育・行政・福祉関係者・地域住民が、若年被害女性の現状や抱えている課題について認知・理解する。** 目標達成時期｜2021年7月
	主な活動（概要）｜■若年女性へのアンケート調査　■若年被害女性（家出・売春・自死・自傷・性被害など）に関する文献調査 ■若年女性が置かれている現状や社会課題をテーマにした講演会や啓発活動（ブルークロス運動） ■HP等を活用しアンケート調査結果やスタッフの研究レポートを掲載

指標	初期値	目標値	実績値
①ブルークロス運動の開催回数	①２回/年 （講演会・啓発活動合わせて）	①初期値より １回増加	①2020年度、2021年度、2022年度、各１回開催にとどまっている。 【目標未達成】 【実施状況】2020年度までは、講演会を１回、県内の大学学園祭での啓発活動を１回開催していたが、新型コロナウイルスの影響により学園祭が中止や縮小になり、年１回の講演会を行うのみであった。 目標にしていた啓発活動の増加はマンパワー不足により行うことができなかった。
②ブルークロス運動の参加者数	②４００人/年	②初期値より １５０人増加	②参加者は、2020年度は50名、2021年度は95人、2022年度は26人 【目標未達成】 【実施状況】ブルークロス運動（講演会）は、 2020年度は2020年11月21日、2021年度は2021年11月27日、2022年度は11月19日に開催した。いずれも対面、オンラインのハイブリット形式での開催だった。 参加者は、2020年度は50名、2021年度は95人、2022年度は２６人の参加であった。 なお、2022年度開催分はYOUTUBEで現在も公開しており、2023年1月現在で視聴回数は108回となっている。 啓発活動を開催することができなかったため、参加者数は初期値よりも大幅に減少している。

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

アウトプット 0301 （1/2）	**アウトプット｜ブルークロス運動の参加者や、パープルエイドの活動を通じてつながった各関係機関が、（仮）若年被害女性支援について考えるネットワークの会員として連携し、迅速なつなぎ支援や活動の発展のための勉強会などが開催できる状態。** 目標達成時期｜2021年7月 主な活動（概要）｜■ブルークロス運動参加者への活動報告書送付　■専門機関、専門職を集めたネットワーク会議の開催 ■若年女性の支援に関わってくれる専門機関・団体の開拓とネットワークへの参加呼び掛け		
指標	**初期値**	**目標値**	**実績値**
①連携を依頼した団体の数	①０団体	①初期値より ２０団体増加	①４８団体の増加　【目標達成】 【連携状況】※エコマップ・「外部との連携の実績」欄も参照 現在、４８団体と連携をしている。 団体の内訳は、公的機関１４機関、福祉施設１０施設、民間団体１２団体、医療機関５機関、教育機関６機関、政治団体１団体である。 公的機関、福祉施設、民間団体、医療機関は支援対象者の繋ぎ先などが主である。 団体の中には、報道や既に連携している団体からの紹介などで連携を依頼された団体もあるが、多くは支援対象者の支援過程で一つ一つのケースに応じた繋ぎ先が必要となり、連携を依頼した団体である。 教育機関には当団体のカードを配布して頂いたり、政治団体には勉強会に参加させて頂き、関わりがある教育機関への周知にご協力頂いた。

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

アウトプット 0301 (2/2)	**アウトプット｜ブルークロス運動の参加者や、パープルエイドの活動を通じてつながった各関係機関が、（仮）若年被害女性支援について考えるネットワークの会員として連携し、迅速なつなぎ支援や活動の発展のための勉強会などが開催できる状態。** 目標達成時期｜2021年7月 主な活動（概要）｜■ブルークロス運動参加者への活動報告書送付　■専門機関、専門職を集めたネットワーク会議の開催 ■若年女性の支援に関わってくれる専門機関・団体の開拓とネットワークへの参加呼び掛け

指標	初期値	目標値	実績値
②ネットワーク会議の開催回数	②０回	②６回 （各年度２回開催）	②１回（2020年度０回、2021年度１回、2022年度0回）【目標未達成】 【開催状況】 関係団体とのネットワーク会議については、2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、開催ができなかった。 2021年度は１回開催している。2022年３月５日にZOOM上で「自傷行為の理解とその支援」という内容で、自傷行為に見られる特徴と、それに対する対応方法について研修を行った。福祉関連の情報サイトへの掲載や関係団体へ呼びかけを行ったが、６名のみの参加であった。勉強会については、SNSでの発信の方がより効果があると考え、SNS（※）で支援者や支援対象者向けの情報を発信している。 　2022年度については、福岡市が同年４月に「福岡市若者支援団体ネットワーク」を開設しており、2023年2月現在で25団体がネットワークに所属している。活動を通して繋がった関係機関の多くもこのネットワークに属しているため、現段階では新たにネットワークを開設する必要性は低いと感じている。また、関係団体のSFD 21が月１回警固公園で開催している立ち直り支援イベントに女性支援団体が複数参加しており、イベント中に情報交換を行なっている。 ※SNSは、Twitter、Instagramを開設している。Twitterについては、３年間を通して413,788回投稿が見られており、うち12,124回はより興味を持ちプロフィール画面も閲覧されていた。Instagramは対象者に投稿を見てもらいやすくするため、「死にたい」「リスカ」などの言葉をハッシュタグで添付していたが、度重なる規約変更によってそれらの言葉が規定違反となり、複数回アカウントを削除された。そのため、詳細な閲覧数は不明なものの、2022年5月から現在まで6234回投稿が見られており、そのうち1159回はより興味を持ちプロフィール画面が閲覧されていた。

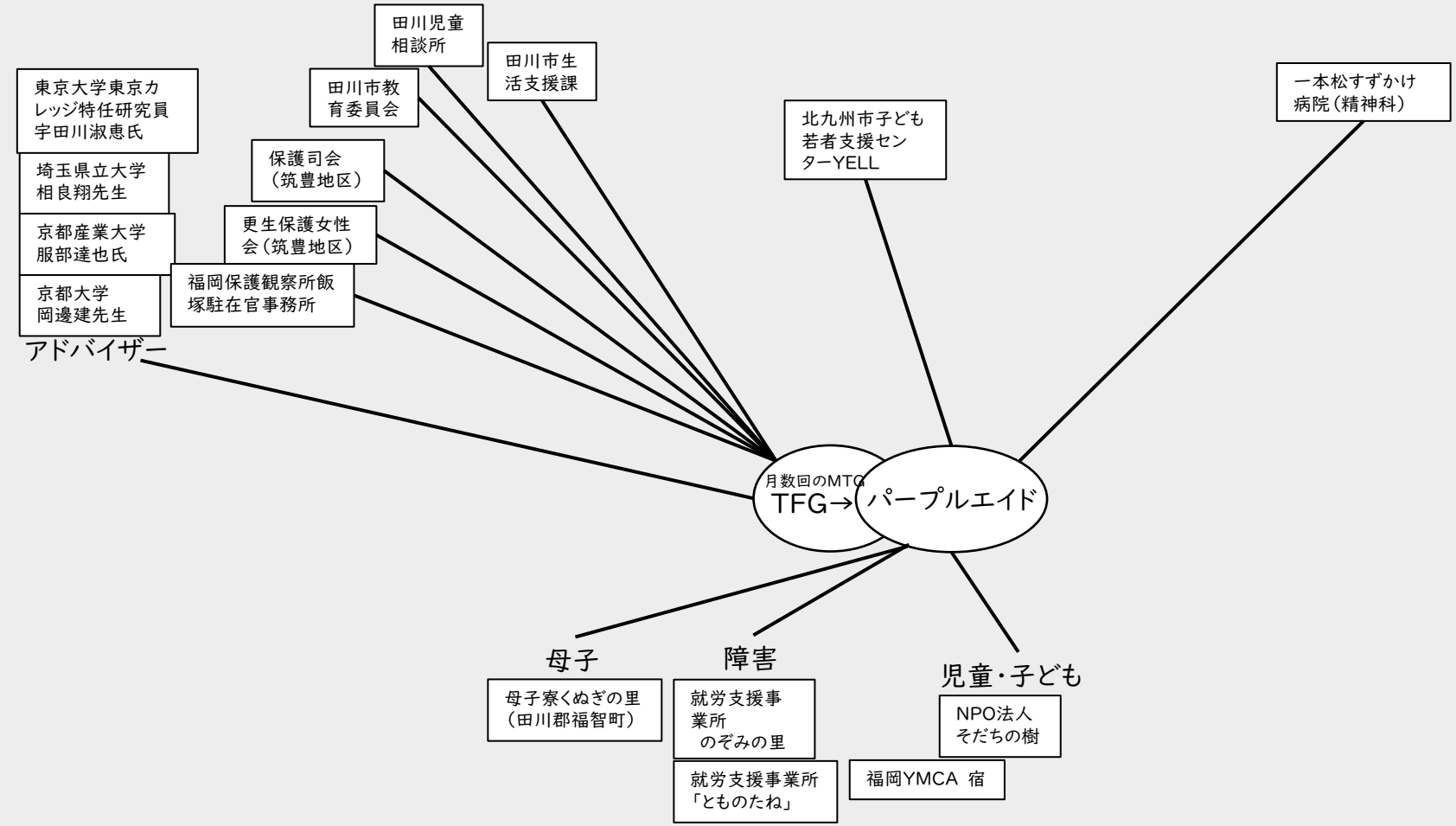
Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

アウトプット 0401	**アウトプット｜福岡以外の他地域で先駆的に女性の支援活動を実践している団体に連絡を取り、情報交換会を行う。** 目標達成時期｜2023年1月		
	主な活動（概要）｜■他地域で女性支援活動団体（NPOやボランティア団体等）との情報交換会 ■他地域からの相談者について、より具体的な支援に繋げられるよう、繋がりを活かした支援を行う		
指標	**初期値**	**目標値**	**実績値**
情報交換会の開催	情報交換会は未実施 福岡県以外での連携団体は０	①概ね５団体が参加 ②年に１～２回、Zoomなどのオンラインを用いて情報交換会を実施	①情報交換会は開催できなかった。【目標未達成】 ②福岡県外以外の連携団体は１　【目標未達成】 【活動状況】 　京都府で活動をしている１団体については、連絡をとり、現地で活動内容の紹介を受けている。また、東京都で活動している１団体に連絡を取ったが、現時点で返答を頂いていない。その他、認知度が高い団体の多くは当事者と取材以外の個別対応は行わない等の対応方針をとっていた。

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

3-4　外部との連携の実績
【事業開始前のエコマップ：2020年3月時点】

■ エコマップ色分け
助成事業開始前 白色　→ 1年目 赤色　→ 2年目 青色　→ 3年目 緑色

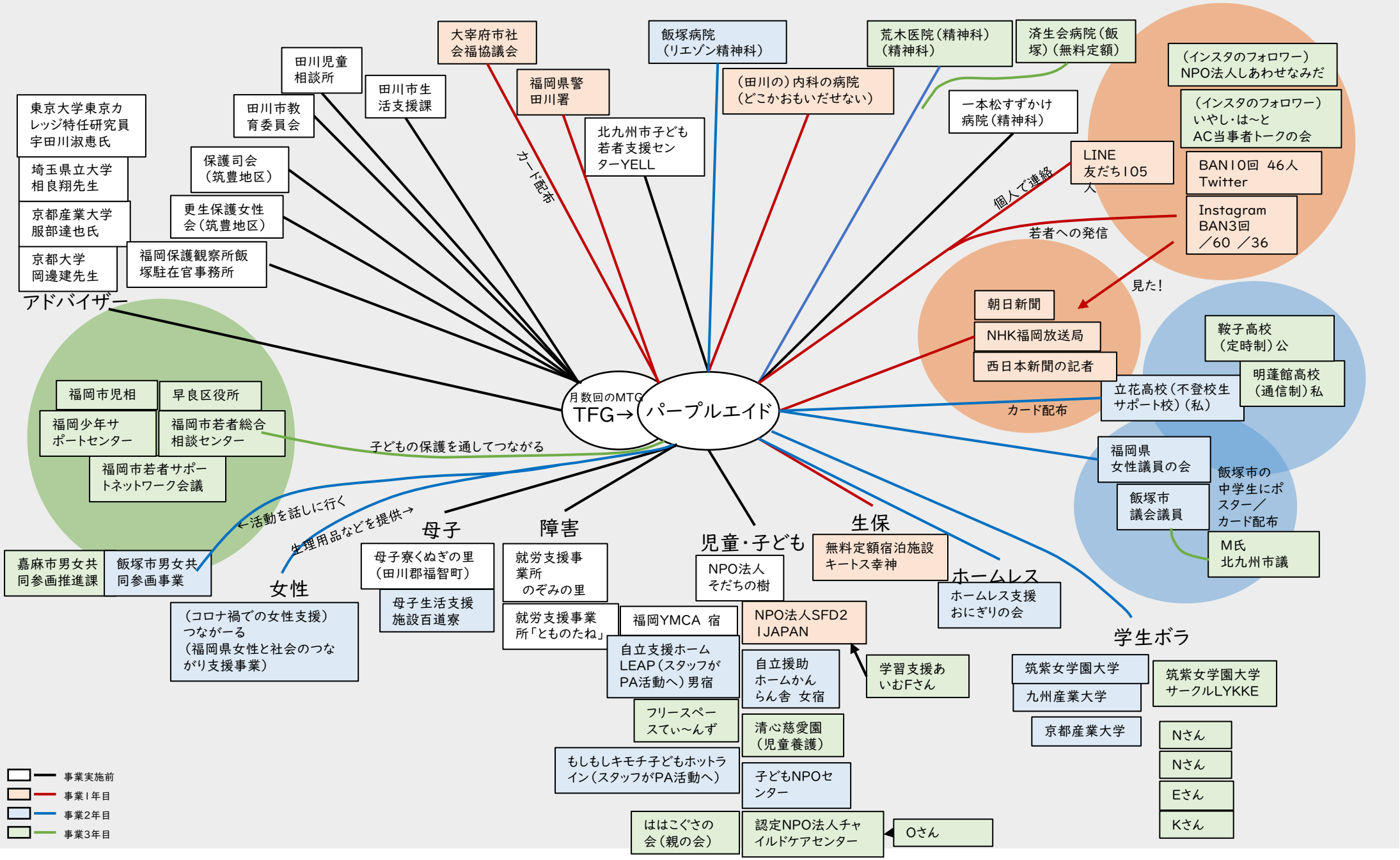


事業実施前
事業1年目
事業2年目
事業3年目

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

3-4　外部との連携の実績
【事業３年目のエコマップ：2022年8月時点】

■ エコマップ色分け
助成事業開始前 白色 → 1年目 赤色 → 2年目 青色 → 3年目 緑色



外部との連携の実績

■１年目

１年目のエコマップの構成団体・個人には、両団体（①特定非営利活動法人田川ふれ愛義塾（以下、TFG）及び②一般社団法人ソーシャルワーク・オフィス福岡（以下、SWOF））の中核的活動（①非行少年支援、②若年女性支援）に関連したものが中心であり、本事業開始前から繋がっている様々な制度等に基づくフォーマルな社会資源とインフォーマルな社会資源があった。

TFGは更生保護事業法に基づく更生保護施設と、障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業所である共同生活援助（グループホーム）を運営していることから、更生保護関連機関との連携や、児童相談所、教育委員会、田川市役所などの行政機関との連携、精神科医療が必要な利用者がいるため、病院、また就労先として就労継続支援B型事業所などとのネットワークを形成している。一方のSWOFは、児童福祉機関、若者支援団体等とのネットワークが効果的な支援には不可欠であるため、福岡市内外の団体等とのネットワークを形成していた。

また、両団体は、非行少年支援及び若年女性支援を中核的活動としている団体であり、犯罪社会学、福祉社会学、矯正社会学、少年法、犯罪・非行、青少年問題などを専門とする外部の有識者との関係を持っている。具体的な有識者ネットワークとしては、アドバイザーとして服部達也氏（京都産業大学）、岡邊健氏（京都大学）、宇田川淑恵氏（東京大学東京カレッジ特任研究員）、相良翔氏（埼玉県立大学）などがおり、それぞれの専門的視点から両団体を側面支援して頂いている。

１年目の連携先の特徴は、TFGの活動は長年行っている活動であり、連携先はある程度確立しているが、SWOFの活動は発足間もないことから元々から関わりがあった児童福祉関連の団体や機関、個人が多い印象である。

■２年目

２年目は、非行少年などの支援機関であるNPOや、居住支援を担う無料定額宿泊所、母子生活支援施設などとの繋がりが新たに形成された。特に、無料低額宿泊所や母子生活支援施設などは、虐待被害、デートDVなどで自宅に帰れないと話した女性を一時的に両団体で運営するシェルターやホテルで保護した上で、中長期的に居住できる施設を外部団体などと連携して探したところ、新たに連携先として開拓した機関である。

他にも、保護をした被支援者で警察署に相談に行く必要がある被支援者について、警察署への同行支援も行なったことから、警察署との連携も新たに構築された。さらに、精神科病院や内科病院などへの通院が必要な被支援者に対しても病院へ同行し、病院等との連携も新たに構築された。

また、２年目はTwitter、Instagramを積極的に活用し、「生きづらさ」を抱えた若年女性に向けた発信に努め、徐々にフォロワーを増加させることができた。事業の被支援者のみならず、同様の支援を担っている他団体とも相互にSNSをフォロー、友達追加することなどにより、双方の具体的な活動内容について知ることに繋がり、必要な場合には互いに紹介し合える仕組みができた。またこの時期には、SNSでの情報発信により、マスコミから取材の問い合わせが増え、これが報道されることで実行団体の広報・啓発の効果に結び付いていた。

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

外部との連携の実績

■３年目

３年目も、被支援者の支援を通して母子生活支援施設やその他児童福祉施設とのつながりが形成された。また、それらの施設関係者がアウトリーチ活動にボランティアとして参加して下さり、単なる意見交換だけでなく、一緒に活動を行うことで現状を体験的に理解して頂くことにつながった。また、県内外の大学の学生ボランティアも参加して下さったことで、より多くの女性に声をかけて相談カードを配布することで相談の件数も増加した。

さらに、飯塚市の市議会議員、飯塚市男女共同参画推進課に活動を説明する機会を得たことで、飯塚市の学校に対して相談カードやポスターの掲示などをお願いさせて頂き、これにより１０代半ばのアウトリーチ活動ではキャッチが難しい層からの相談も増加した。

【３年間を通して】

特にこの３年間で連携の幅が大きくなるきっかけとなったのは、SFD21JAPAN（以下、SFD）との連携、報道機関による報道の増加であったと思う。SFD は、福岡市中心部の公園を拠点に月に１回非行少年の居場所支援や、拠点を置く地域では農作業やジムの運営などを行なっている。特に、公園での居場所支援には、支援を必要としている少年だけではなく、民間団体や行政機関などで様々なアプローチ方法を用いて子ども・若者を支援している大人も集まることから他の相談支援をしている団体や、ボランティアに関心がある個人との連携が新たに生まれた。また、SFD の居場所支援は2015年から継続されている活動であることから街に出ている若年女性についても知識が豊富であり、声かけのノウハウや、支援開始後の繋ぎ先のアイデアを頂くなどした。

また、複数の報道機関により当団体の活動が報道されたことで活動に関心を持つ学生ボランティアが増加した他、報道を見た地方議員や自治体から声がかかり、相談カードやポスターの配布にご協力頂いたことで支援対象者への啓発にも繋がったと考えている。

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

4．アウトカムの分析

ロジックモデル　【パープルエイド・ブルークロス運動】

中期アウトカム

若年女性がそれぞれに豊かな暮らしを送れるようになる。

短期アウトカム

01
若年女性が継続的なサポートを受けられ，抱えている課題が解決に向かう。

02
地域住民や地域の機関・団体が、若年被害女性の支援の必要性について理解するようになる。

03
若年女性を支援するネットワークが、地域の中に構築され、支援ノウハウの共有が図られる。

04
実行団体の知識・スキルが向上し，福岡以外の地域で同様の若年女性支援を行っている他機関と有機的な連携が図れる。

アウトプット

0101
アウトリーチによって若年女性が団体の存在を知り、サポートを受けている状態。

0201
福岡県内において、パープルエイドとブルークロス運動が連動して実施した啓発、講演会活動により、教育・行政・福祉関係者・地域住民が、若年被害女性の現状や抱えている課題について認知・理解する。

0301
ブルークロス運動の参加者や、パープルエイドの活動を通じてつながった各関係機関が、（仮）若年被害女性支援について考えるネットワークの会員として連携し、迅速なつなぎ支援や活動の発展のための勉強会などが開催できる状態。

0401
福岡以外の他地域で先駆的に女性の支援活動を実践している団体に連絡を取り、情報交換会を行う。

活動

■福岡県内の繁華街でのアウトリーチ活動（声かけ・カード配布等）
■相談支援（電話やメール、LINE）
■シェルターを利用した居場所の提供
■中長期的な住まいの確保やその他必要な支援、就労に繋げる為の同行支援
■活動で得た知見やアンケート調査から、若年女性の”生きづらさ”を把握し、評価指標を作成する。

■若年女性へのアンケート調査
■若年被害女性（家出・売春・自死・自傷・性被害など）に関する文献調査
■若年女性が置かれている現状や社会課題をテーマにした講演会や啓発活動（ブルークロス運動）
■HP等を活用しアンケート調査結果やスタッフの研究レポートを掲載。

■ブルークロス運動参加者への活動報告書送付
■専門機関、専門職を集めたネットワーク会議の開催
■若年女性の支援に関わってくれる専門機関・団体の開拓とネットワークへの参加呼び掛け

■他地域で女性支援活動団体（NPOやボランティア団体等）との情報交換会
■他地域からの相談者について、より具体的な支援に繋げられるよう、繋がりを活かした支援を行う

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

（1）　アウトカムの計画と実績

短期アウトカム 01 (1/2)	若年女性が継続的なサポートを受けられ，抱えている課題が解決に向かう。 目標達成時期｜2023年1月		
指標	初期値 ／初期状態	目標値 ／目標状態	アウトカム発現状況（実績）
①当事業による支援によって自立した生活を送っている若年女性の数（事例）	①年間３名	①初期値より１０名増加（年間13名）	①2020年度４人、2021年度３人、2022年度５人（内９名はシェルター利用） 【目標未達成】 支援後の居住先は、実家が２名、交際相手宅が１名、一人暮らしが５名、施設等が５名だった。施設は、児童福祉法に基づく児童福祉施設、社会福祉法に基づく無料低額宿泊所などである。ただし、施設等につないだ後に当団体や施設とも連絡が取れなくなってしまった例もある。 事例１：アウトリーチの際に、入院や服役により保護者がおらず、ライフラインが止まるなど自宅での生活が困難となった１０代の女性が援助交際をしようとしていた。同女性には適切な入所先が決定するまでの生活の本拠が必要であったので、一時的にホテルに宿泊させ、その後シェルターで保護しながら、関係団体とともに入所先の調整を行なった結果、児童福祉施設の入所につながった。 事例２：関係団体から紹介を受けた女性からグループホームやシェアハウスに入居したいと相談を受けた。女性はSNSで知り合った男性のもとに身を寄せていると話したことから当団体のシェルターの利用を勧めるも、人が常駐している場所が良いと言って利用を拒んだ。そこで、管理人が常駐している施設を一緒に探していたところ、福岡県近郊で入所できるシェアハウスが見つかり、体験入居ののちに正式入居した。
②継続的な相談支援を受けている若年女性の数（事例）	②年間５名	②初期値より１５名増加（年間20名）	②2020年度５人、2021年度１７人、2022年度３０人 （２回以上相談を受けているもしくは受けていた女性） 【目標達成（2022年度）／未達成（2020年・2021年）】 2021年度中の継続相談者の３名は一時相談が中断されたものの、2022年度になり相談が再開している。 （事例は次ページ）

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

短期アウトカム 01 (2/2)	**若年女性が継続的なサポートを受けられ，抱えている課題が解決に向かう。** 目標達成時期｜2023年1月		
指標	**初期値 ／初期状態**	**目標値 ／目標状態**	**アウトカム発現状況（実績）**
②継続的な相談支援を受けている若年女性の数（事例） ～前ページからのつづき～	②年間５名	②初期値より１５名増加（年間20名）	②（前ページからの続き（事例）） 事例１：関東地方に在住している女性から、「死にたい」「寂しい」とメッセージを受けた。市販薬の過剰摂取が止められず、どうしたらいいか分からないとの相談が主訴であったが、通院していることから希死念慮については医師の指示に従うように助言し、女性が抱えている日常的な悩みを聞いたり、趣味の話をしたりするなど、女性の寂しさに寄り添う支援を行っている。気持ちが沈む時期には連絡が取れなくなることもあるが、名前を変えて再度相談を受けるなど、事業開始当初から関わりがある女性である。 事例２：当団体の相談カードを配布した学校に通っている女子生徒から相談を受けた。コロナ禍で授業形態や登下校の方法が変化したことにより仲が良かった友人との関係性も変わってしまい、悩んでいるとの相談であった。女子生徒は具体的なアドバイスを求めていたことから、共感し傾聴しつつ、時間の経過により友人関係が変化することはお互いにあることや、相手に考えを聞いてみることなどを助言したところ、「ありがとうございます。また相談します。」と話した。その後も人間関係の悩みについて単発的に相談を受けることがある。
③支援活動に「生きづらさの評価指標」が使われるようになる。	③「生きづらさの評価指標」未作成	③すべての支援対象者に「生きづらさの評価指標」が使われるようになる	③「生きづらさの評価指標」仮案は作成したが、実装していない。 【目標未達成】 指標として内容を固めるために、少女達のアンケートを集める必要があるところ、指標を必要とする（困難さを抱えた）少女ほどアンケートへの協力が得られにくいなどの壁があり、指標の確定に至っていない。 　別の方法として、他団体で既に持っている指標を活用することを検討したが、他団体との連携が難しい状態で（当事者と取材以外の個別対応は行わない等）指標を使う意義も含めて再検討をしていく必要があるのではないかと内部で検討中。

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

短期アウトカム 02	**地域住民や地域の機関・団体が、若年被害女性の支援の必要性について理解するようになる。** 目標達成時期｜2023年1月

指標	初期値 ／初期状態	目標値 ／目標状態	アウトカム発現状況（実績）
①ブルークロス運動のイベントに参加した人のうち、若年女性への支援について、「（支援の）必要性が理解できた」とした人の割合（定量）	①０％ (若年女性支援のイベント未開催のため)	①アンケートに回答した人の80％	①【目標達成】 ・2021年度 若年女性支援の必要性が少し理解できた　20％ 若年女性支援の必要性がよく理解できた　80％ ・2022年度 若年女性支援の必要性が少し理解できた　12.5％ 若年女性支援の必要性がよく理解できた　87.5％ ブルークロス運動は、2020年度は2020年11月21日、2021年度は2021年11月27日、2022年度は11月19日に開催した。いずれも対面、オンラインのハイブリット形式での開催だった。参加者は、2020年度は50名、2021年度は95人、2022年度は26人であった。なお、2022年度開催分はYOUTUBEで現在も公開しており、2023年1月現在で視聴回数は108回となっている。アンケートの回答者は、2021年度が15名、2022年度は8名で2020年度についてはアンケート未実施である。
②ブルークロス運動のイベントに参加した人のうち、若年女性への支援に「自分も何かしら協力したい」とした人の割合（定量）	②０％ (若年女性支援のイベント未開催のため)	②アンケートに回答した人の50％	②【目標達成】 ・2021年度　できることがあれば協力したい　60％ ぜひ協力したい　33.3％ ・2022年度　できることがあれば協力したい　62.5％ ぜひ協力したい　37.5％ 「できることがあれば協力したい」「ぜひ協力したい」と答えた人に、具体的な協力方法を尋ねたところ、以下の回答を得た。 具体的な協力方法　2021年度　2022年度 **支援団体への寄付　26.7％　37.5％** **<u>ボランティアとして参加する</u>　<u>66.7％</u>　<u>87.5％</u>** 物品等を寄付する　13.3％　25％ 自団体での支援提供を検討する　13.3％　25％ **アウトリーチ活動に参加する　33.3％　50％** 広報に協力する　13.3％　25％ ※参加（ボランティアとして又はアウトリーチ活動への参加）が圧倒的に多く、次いで支援団体への寄付となっている

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

短期アウトカム 03 （1/2）	**若年女性を支援するネットワークが、地域の中に構築され、支援ノウハウの共有が図られる。** 目標達成時期｜2023年1月

指標	初期値 ／初期状態	目標値 ／目標状態	アウトカム発現状況（実績）
①福岡県内において若年被害女性を支援する団体の数	①５団体 (行政窓口は含まない)	①初期値より ５事業者等増加（10事業者）	①初期値より4団体増加　【目標未達成】 ４団体のうち1団体は、ホームレス支援を行なっている団体であるが、当団体のアウトリーチ活動に参加して頂き若年女性支援の必要性を感じて頂いたことで、ホームレスの女性の支援を強化したり、実態調査を行うなど、既存の活動に加えて若年被害女性の支援を行っている。残り３団体は、自立援助ホームを運営しながら相談支援活動も行っている団体、学習支援を主軸に居場所支援やアウトリーチ活動を行なっている団体、若年女性にフードバンクなどから寄付された生理用品や食品などを配布している団体である。
②若年女性を支援する活動の協力団体・協力者（ボランティア）の数	②協力団体６団体、 協力者１０名	②初期値から 協力団体１０団体増加 （16団体） 協力者３０名増加（40名）	②協力団体は42団体増加（48団体） 協力者は35名増加（45名）　【目標達成】 協力団体の内訳は、公的機関１４機関、福祉施設１０施設、民間団体１２団体、医療機関５機関、教育機関６機関、政治団体１団体である。 公的機関、福祉施設、民間団体、医療機関は支援対象者の繋ぎ先などが主であり、教育機関には当団体のカードを配布して頂いたり、政治団体には勉強会に参加させて頂き、関わりがある教育機関への周知にご協力頂いた。 協力者の内訳は、学生ボランティア３５名、民間団体スタッフ７名、議員１名、SNSで特に繋がりがある２名である。民間団体スタッフは協力団体に属しているスタッフの中で、特に若年女性支援に関心がある方に活動に参加して頂いている。SNSで特に繋がりがある２名については、当団体が開設しているインスタグラムで当団体について投稿をして頂いたり、ブルークロス運動に参加して頂くなどSNS上で協力を頂いている。

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

短期アウトカム 03 (2/2)	**若年女性を支援するネットワークが、地域の中に構築され、支援ノウハウの共有が図られる。** 目標達成時期｜2023年1月		
指標	**初期値 ／初期状態**	**目標値 ／目標状態**	**アウトカム発現状況（実績）**
③若年女性支援ネットワークによって支援が円滑に行われた事例	③事例なし	③初期値より10事例増加	③初期値より７事例増加　【目標未達成】 事例１：関係団体から、親からの虐待などにより受け入れ先のない１９歳の女性の紹介を受け、一時的な避難場所の設定が必要であったことから、当団体の管理するシェルターで一時的に保護を行い、生活保護を受給するに至った。 事例２：女性から、家出をして行く当てがなく、シェアハウス等に入所したいと相談を受けたことから、関係団体のスタッフに適切な繋ぎ先を紹介してほしいと当団体から依頼をし、一緒に面接を行うなどした。女性は社会保障制度についての知識が乏しく、また説得にも応じないなど支援は難航したが、面接やSNSによる相談を重ねてシェアハウスの入所につながった。
④関係機関と「生きづらさの評価指針」を共有して支援に当たった事例	④「生きづらさの評価指標」未作成	④「生きづらさの評価指針」を関係機関で共有することで円滑な支援ができるようになる（具体的な事例を記載）	④生きづらさの評価指標」仮案は作成したが、実装しておらず、関係機関での共有等はできていない。【目標未達成】 指標として内容を固めるために、少女達のアンケートを集める必要があるところ、指標を必要とする（困難さを抱えた）少女ほどアンケートへの協力が得られにくいなどの壁があり、指標の確定に至っていない。 別の方法として、他団体で既に持っている指標を活用することを検討したが、他団体との連携が難しい状態で（当事者と取材以外の個別対応は行わない等）指標を使う意義も含めて再検討をしていく必要があるのではないかと内部で検討中。

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

短期アウトカム 04	**実行団体の知識・スキルが向上し，福岡以外の地域で同様の若年女性支援を行っている他機関と有機的な連携が図れる。** 目標達成時期｜2023年1月		
指標	**初期値 ／初期状態**	**目標値 ／目標状態**	**アウトカム発現状況（実績）**
①情報交換会を通じて、当団体の知識やスキルの研鑽を行うとともに、有機的な連携によって県外の女子からSNS等で相談があった場合、当該女子が住む地域の最寄りの支援団体を紹介することができるようになる。	①情報交換会は未実施	情報交換会を通じて、当団体及び協力団体の知識やスキルがアップするとともに、全国の若年女性支援団体と実際の支援の場面でも連携・協力できる関係になる。	①各地の若年支援助成団体へのアプローチを試みたが連携関係構築には至っていない。【目標未達成】 【具体的状況】京都府で活動をしている１団体について連絡をとり、現地で活動内容の紹介を受けたり、実際に活動に参加させてもらって支援対象者とお話しをさせて頂く機会を得た。また、愛知県で活動している団体についても活動内容の紹介を受け、パープルエイドの紹介も行ったが、今現在は連絡を取り合うことはしていない。東京都で活動している１団体についてはお話しを伺いたい旨の連絡をしたが、現時点で返答を頂いていない。 認知度が高い団体の多くは当事者と取材以外の個別対応は行わない等の対応をとっていたり、活動内容に共通点があっても活動の趣旨は異なっていたりするなど、実際に連携をとることの難しさを感じた。 現在は事業開始前に比べ、福岡県内の若年女性支援団体が増加していることから、まずは県内の団体との連携を深め、連携団体を通じて県外の団体にアプローチするなど、連絡方法を再度検討する必要がある。

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

（２） アウトカム達成度についての評価

事業の短期アウトカムの評価	左記のように評価した理由
☐ 短期アウトカムの目標値を上回って達成できている ☐ 短期アウトカムの目標値が達成できている ☑ 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できている ☐ 短期アウトカムの目標値の達成はできなかったと自己評価する	達成できていない短期アウトカムも複数存在するが、目標値を上回っているものや、年度を重ねるごとに目標値に近づいているものなど、評価できるアウトカムもあることから左記のように評価した。

4-2 事業の効率性

事業実施のためのインプットに対して成果の規模や質は妥当であったか

【投入資金が効率的に使われたか】		
実際に事業で使った金額と種類	合計 14,091,821 円 ※2023年4月末 推定値	事業費：13,672,126 円 （内訳 直接事業費：12,495,666 円 ／ 管理的経費：1,176,460 円） ※上記事業費には、自己資金：2,148,535 円 を含む 評価関連経費：419,695 円

事業費の多くはスタッフの交通費、シェルターの賃料やホテルでの一時保護時の利用費、シェルター利用者への食事や寝具、衣類などの購入費、相談カードやノベルティの購入費に充てた。

シェルターについては、危険な状態にあった１２人をシェルターで保護したことで、家族との関係改善や、適当な福祉施設への入所などにつながった。シェルター利用者への食事や寝具、衣類などの購入については、着の身着のままで保護をした女性が多く衣食住が整っている環境を提供できたことで早期の自立に繋がった。また、保護解除後も新生活を始めるにあたり寝具や衣類などが必要になることから、スムーズな生活基盤の構築に貢献することができた。

相談カードやノベルティの購入については、カードの質やデザインを向上させたり、カードにノベルティの絆創膏を添付したことでより多くの人に受け取ってもらえるようになった。

また、新型コロナウイルスの感染者が増加した時期には、スマートフォンやタブレットを購入したことでSNSの活用が促進された。アウトリーチ活動が中止となった時期はSNSの更新頻度を増加させた他、投稿する画像も支援対象者の興味を引くようなデザインになるよう工夫を凝らした。ブルークロス運動は、購入したタブレットを活用してZOOMやYOUTUBEで配信したことで感染状況の影響も少なく開催することができた他、アーカイブ配信を行い、好きな時間に講演を視聴できるようにしたことで、制限が少なくより多くの方に参加して頂くことができた。

Copyright 2023 TFG ※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

4-3　成功要因・課題

事業成果のうち、特に社会課題解決に貢献したアウトカムと、達成が困難であったアウトカムについて、その要因や課題の考察。

特に社会課題解決に貢献したアウトカム

【アウトカム】　03　若年女性を支援するネットワークが、地域の中に構築され、支援ノウハウの共有が図られる。

【要因】

このアウトカムが特に社会課題解決に貢献したと考えたのは、当団体のエコマップからも明らかなように、連携をおこなっている関係団体が増加したことや、新たに当団体と同じように若年女性支援を行う団体が増加したことが理由である。

連携をおこなっている団体が増加した要因として、まず第一に、支援対象者を支援する過程で新たな社会資源が必要となったことがあげられる。

例えば、当団体のシェルターは長期間の利用は想定しておらず、短期間の利用後に児童福祉施設、女性相談所、母子生活支援施設などの施設への入所や、一人暮らしをサポートすることを想定している。その他にも、他団体が支援対象者に対して当団体の紹介をしたり、シェルター機能を持たない団体からシェルターに繋げたい目的で相談を受けたりと、他団体から連携を持ちかけられる例もあった。支援対象者の置かれている状況や属性などは様々であることから、活動を継続する中で少しずつネットワークが構築されていった。

第二に、地方紙やニュースで活動を取り上げて頂いたり、InstagramやTwitterなどSNSの投稿を積極的に行なったことで連携を行う個人や団体が増加したと考える。Twitterについては、３年間を通して413,788回投稿が見られており、うち12,124回はより興味を持ちプロフィール画面も閲覧されていた。Instagramは対象者に投稿を見てもらいやすくするため、「死にたい」「リスカ」などの言葉をハッシュタグで添付していたが、度重なる規約変更によってそれらの言葉が規定違反となり、複数回アカウントを削除された。そのため、詳細な閲覧数は不明なものの、2022年5月から現在まで6234回投稿が見られており、そのうち1159回はより興味を持ちプロフィール画面が閲覧されていた。SNSの投稿を開始した当初は、支援対象者を主なターゲットに絞っていたが、県内外で若者や子どもを支援する団体や活動に興味を持った個人がアカウントをフォローして下さり、当団体の勉強会やブルークロスムーブメントの講演会にも参加して下さるなど、SNSの投稿を開始した当初は想定していなかった「支える側」との繋がりも構築された。達成が困難な課題もあったが、ネットを活用したことで当初の想定以上に結果を出すことができた課題もあった。

次に、新たに若年女性を支援する団体が増加した要因として第一に、他団体や個人が当団体の活動に参加、賛同してくださったり、反対に当団体のスタッフが他団体の活動に参加したりしたことにより、若年女性を支援することの意義を改めて理解して頂くことができたことが要因ではないかと考える。

特に、当団体のアウトリーチ活動には複数の団体や、他都府県の大学生など、県内外からたくさんの方に参加をして頂いた。参加して下さった方々の中には、「自分達もやってみよう」とそれぞれの強みを活かして若年女性を支援する活動を新たに始められた方がおられる。活動内容も様々で、当団体と同じようにアウトリーチを行う団体であっても、その場で女性たちと関係を築くことを目指している団体や、女性だけではなく若い男性へも積極的に声かけを行う団体など、それぞれの団体が独自性を持って行うことで、当団体の活動当初に比べ、網の目の細かい支援体制を構築することができているのではないだろうか。

また、若年女性を支援する団体が増加した直接的な要因とはいえないが、１０代から２０代前半の若者が抱える「生きづらさ」に焦点を当てた報道が増加したことも、団体の立ち上げを後押ししたり、私たちの活動に関心を持って下さる方の増加に影響しているのではないかと考える。福岡県内では警固界隈、東京ではトー横キッズ、名古屋ではドン横キッズなど、家庭や学校などに居場所を感じられず特定の場所に集う若者についての報道が増加した。また、活動時に声をかけた支援対象者が呟いていた「親ガチャ」が流行語大賞に選出するなどして、これまで家出、援助交際、自傷行為などあまり広く取り上げられてこなかった若者の現状が広く知られることになった。

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

特に達成が困難であったアウトカム

【アウトカム】 02　地域住民や地域の機関・団体が、若年被害女性の支援の必要性について理解するようになる。

【課題分析】

本アウトカムについては、ブルークロス運動のシンポジウムや講演会に参加いただいた方については、若年女性に対する支援の必要性に関する理解に関して良いい結果が出ており、指標については目標を達成できている。つまり、参加者には、シンポジウムや講演会の内容について十分届いていると評価できる。

一方、本アウトカムに紐付くアウトプットについて分析すると、「パープルエイドとブルークロス運動が連動して実施した啓発、講演会活動」について、事業開始前は少年非行の研究者や、元当事者からお話をして頂く講演会を１回、大学の啓発活動を１回（年２回）開催していたものを、年間３回に増やして開催することを目指していた。しかしながら、各年１回の開催にとどまった。また、参加者数についても、本事業前のブルークロス運動の講演会では１回当たり400人程度の参加をいただいていたのが、３年間いずれもそれを大幅に下回った。初期値よりも開催回数が少なくなってしまったり、集客数が伸びなかったことなど、反省点が多い活動であった。

つまり、講演会等の内容としては、参加いただいた方に十分届くものを用意できていたが、目指した回数の開催と、広く広報して集客する活動が十分できず、その結果、「多くの方に理解していただく」ところまでは届かなかった。

この要因については、一つには、事業開始直後からはじまった新型コロナウイルスの感染拡大が大きい。そもそも講演会を開催することすら、最初の２年間は特に、突然「緊急事態宣言」や「まん延防止重点措置」が発出されことから先を見通すことができず、人を集めるイベントを開催できるものかどうかと、ぎりぎりまでスタッフ間で迷うような状態であった。また、広報についても、事業開始前の講演会では、福岡県内の保護司や更生保護女性会などの民間更生保護ボランティアなどに広く参加を呼び掛けていたが、コロナ禍では、イベントを広く告知すること自体がはばかられ、大学関係者への広報にとどめた。

要因の二つ目としては、スタッフのマンパワー不足であったことが挙げられる。事業期間中にパープルエイドの中核スタッフのライフステージに変化があり、活動を進めたい思いは変わらずあったが、注げる時間には限りがあり、繋がっている女の子の数が増えていく中で直接支援の手を緩めることは出来ず、広報等の活動に割ける時間が少なくなるという状況であった。この点では、パープルエイドメンバーだけで担うのではなく、TFGでも広報等の活動展開を行うなど、工夫すべきところがあったと思われる。活動全般に言えることではあるが、２団体で活動を行うには、１団体で活動を行う以上に細かい打ち合わせや役割分担が必要であったことも反省点として残った。

講演会の内容面は良かった一方で、支援者による報告が多くなり、ブルークロス運動の“売り”である「当事者からの声」を届けることができなかった点は残念な点として心に残っている。元当事者が出演するとなるとかなり事前に調整が必要となるが、スタッフのマンパワー不足により、元当事者に出演してもらうところまでの調整ができなかった。ただ、相談を寄せてくれる女性の多くはまだ対外的に体験を語れる状態になっていないことが多く、マンパワーがあったとしても、調整に至らなかった可能性はあった。

結論として、コロナなどの社会背景はあるものの、計画した活動量が団体やスタッフの規模に見合っていなかった（大きな目標を設定しすぎた）と分析している。

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

事業全体を振り返っての考察

アウトリーチ活動に関して

夜回り活動を開始した当初は、夜回り活動の中で「相談窓口」の案内（情報提供）をすることで、ある程度は支援を必要とする若年女性が相談に繋がってくることを想定していた。しかし、実際には夜回りの際に「相談窓口」を紹介しても相談に繋がったケースは少なかった。例えば、雰囲気や見た目などから支援を必要としているように見える女性ほど声かけをされることに拒否的であり、「お家のこと、学校のこと、いろんな話を聞いてるから、相談してみて」と伝えると、「色々あるからこそ話したくない」と言われたり、声をかけてすぐに立ち去る方も多い印象だった。また、相談をすること自体がハードルが高いと感じていた人も多いのではないかと思う。

一方で、当初は力を入れていなかったSNSへの投稿を毎日継続したことで、新規相談の獲得に繋がった側面もある。新型コロナウイルスの流行は街頭での夜回り活動の継続を困難にさせ、事業を実施する上で大きな弊害となったが、夜回りの代替策としてSNSへの投稿を毎日行ったことで、相談者数が増加しただけでなく、投稿を見た一般の方に知って頂く機会にもなったと思う。

新規相談を獲得することを目的に行うアウトリーチ活動は効率的ではなく、特にマンパワー不足の中で行うことはスタッフの負担も大きくなる弊害はあるものの、出向いた先でしか出会えなかった女性たちに出会うことができたことは夜回り活動の大きな効果であることから、夜回り、SNSの両者の長所を生かして今後のアウトリーチ活動のあり方を考えていきたい。

相談支援活動に関して

相談支援活動は、本事業のなかでも特に若年女性と関わることができる活動であり、日々、悩みを持つ女性からの相談を受けている。

LINE相談ができる相談窓口は年々増加しており、福岡県も今年度から、「児童生徒の悩み相談窓口」を開設するなど、民間団体だけでなく地方公共団体も開設に乗り出している。相談方法にSNSを利用するメリットとして、電話相談に比べて相談者が気軽に相談をすることができること、支援者側も空いている時間に相談に乗ることができるなどがある。特に、私たちはスタッフ全員が本業との掛け持ちで本事業を運営しているため、決まった時間に相談を受けたり、一人一人のやり取りに長時間を費やすことが難しい。それらの理由から、事業開始当初からSNS相談をおこなっているが、実際に運営する中で多くの課題、葛藤があった。

まず、一番に私たちを悩ませたのはLINE相談の気軽さが裏目に出てしまうケースが多かったことだ。SNSは、繋がることも気軽で、前述したように、InstagramやTwitterなどSNSの投稿を見て友達追加をしてくださる方も多く、一日に３、４名が一気に相談を送って来られることもある。一方で、相談に乗っていると、やり取りを開始して１日程度でブロックされ連絡が取れなくなるなど、気軽に連絡手段を断たれてしまうことも多い。また、速報性が高いツールであるが故に女性達が期待する解答速度とこちらの返信時間にずれが生じやすく、スマホ上の通知文を見て返信内容を考えながら３分後に開いたときには既にブロックされていたり、１時間程返信が出来ないでいるだけで「早く返信して」「もう本当に死ぬからやっぱりいい」と何度もメッセージが送られてくることもある。相談された悩みに助言がほしいと言われ、色々な案を提案してもそれを実践してもらえることもあまりない。

必要性を感じ、使命感を持って相談支援活動を行っていることには変わりはないし、私たちスタッフは福祉分野の専門知識を有していることからこのような態度が珍しいものではないと理解しているが、それでも、何度もこのようなことがあると怒りにも似たような感情を抱くこともあった。スタッフ自身も疲弊し、相談者と一緒に気持ちが落ちてしまうことも経験した。

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

相談支援活動に関して（つづき）

しかし、活動を続けるうちに、これこそが若年女性の「生きづらさ」を反映しているものではないかと考えるようになった。このような関わりしか持てないからこそ、学校や地域の中で関係を構築することが難しく、「生きにくい」と思うのではないか。そう考えるようになると、ブロックをされても、「また相談してくれたらいいな」「どこかもっと合う場所につながれればいいな」と思うようになった。相談者の中には、一度ブロックをした後も名前を変えて相談をしてくれる人もいる。戻ってきた女の子の方から「覚えていますか」と聞かれることもあり、覚えていることを伝えると喜んでくれたこともあった。

ケースによっては機動力を持って対応しなければならない場合もあるし、悩みには誠心誠意向き合っていきたい。関係性や本人の精神状態を見て伝えた方がいい助言は伝えるつもりだ。ただ、３年間の活動を通し、女の子たちは「ちょっと話したい」と思ったときに話を聞いてくれる人を求めていることに気付かされた。そのニーズに応えられるような体制づくりは今後の課題としたい。

シェルターを利用した居場所の提供に関して

活動当初は、家出をしていて危険な状況にある女性を一人でも多く保護したいと考えていたが、実際に活動する中で保護する女性を「選ぶ」必要性も出てきた。例えば、夜周り中に声をかけて保護に至った女の子のケースでは、公園で声をかけた際、その女の子の周囲には同じように家出をしている子が複数いた。保護をした女の子は自宅に保護者がいないこと、パパ活をして生活費を稼いでいることなどからその他の女の子に比べるとリスクは高かったが、そこにいた全員が家に居場所がないことは同じであった。そうしたことから、スタッフ間でもいまこの時点で保護をすることの是非を話し合ったが、女の子が「いずれは児童福祉施設で生活したい」などと話したことから、施設入所のためにはすぐに保護をして児童相談所に行く必要があることを説明し、保護をするに至った。

その他には、勉強をしている最中に保護者が話しかけてきて勉強が捗らずストレスが大きいのでシェルターで保護をしてほしいとの相談を受けたり、保護者が過保護でしんどいから家出をしたいとの相談を受けたりしたこともあるが、こうした相談には慎重に対応をするようにしている。相談があった時点で家を出てしまっている場合や虐待などリスクが高い場合は保護を検討することもあるが、話し合いやSNS相談で支援をすることが先決と思われる場合には、家を出ずに話し合うことや、身近にいる家族以外の大人に相談をすること、家を出る以外の方法（親戚宅や友人宅、金銭的余裕があればホテルを利用する）を提案すること、私たちが愚痴を聞くことができると提案するようにしている。相談者が家に居づらいと感じる理由には共感するが、先が見えていないまま家出をすることで問題がより複雑化してしまうことも多い。また、虐待を受けている、妊娠をしている、精神疾患があるなどの背景があれば社会保障制度を活用することで保護後の繋ぎ先をいくつか検討することができるが、そうした背景がなければ実家に戻るか、仕事をしながら住むことができる場所を探すしかない。ただ、それらが現実的に難しく、交際相手やSNSで知り合った人（特に男性の場合が多い）の元に身を寄せるなどの方法をとる女の子もいる。

保護をした女性の中にも、家出先の交際相手やSNSで知り合った男性とのトラブルから居場所を失くしてしまい、どこにも行く当てがなくて相談につながったケースもある。このようなケースは若年女性特有であり、特に男性が介在していることで支援が困難に感じることも多かった。（次ページにつづく）

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

シェルターを利用した居場所の提供に関して（つづき）

あるケースでは、小さい頃に虐待の被害にあい、現在もしつけが厳しいなどの理由で家出して彼氏と同棲しようと福岡に来たものの、到着後に彼氏から、「母親が厳しいから同棲できない。一人暮らしを始めたら迎えに行く」と言われ、ネットカフェで生活していたところで私たちに相談を寄せてくれたことがあった。女の子自身で保護者に居場所を伝えていたため、私たちが両親と連絡を取り合い、両親が女の子の荷物や好物を持って関西から会いに来たこともあり、その際には両者の話し合いを仲介する役目を担った。私たちから両親の思いを伝え、少し心が揺らぐ様子もあったが、同時に彼氏が女の子に対して両親に会わないように言ったり、家に帰っても良いことがないと繰り返し吹聴したりしたことで、気持ちは変わらず、同棲の準備ができたところで保護を解除することになった。シェルターを出ると途端に連絡が取れなくなったが、母親からはアルバイトを始めたことや、体調のことなどの連絡をしばらくの間受けていた。このケースを扱った後はスタッフ間でも話し合い、「実家に帰るようにもう少し時間をかけて説得するべきだったのでは」とか、「安易に保護をするとホテル代わりに使われるリスクもあるのでは」「両親と頻繁に連絡を取り合うまでに関係が修復したので出来ることはしたのでは」という意見が出たほか、同棲など居候するかたちになると関係が悪くなればまた家を失う可能性もあることから、私たちが責任を持って紹介することができる繋ぎ先以外には繋がないなど、保護をする重みを再認識することになった。

また、いくつかの福祉施設に繋げたケースでも、施設入所後に彼氏の元で無断外泊をして帰ってこないとか、再度喧嘩になり行くあてがなくなって相談に繋がることもあり、男性との関係性によって生活が左右されてしまうことも多かった。

保護をするまで、そして保護をしている間の心理面の支援や関係団体との調整などはパープルエイドが主体となって動いているが、生活支援や緊急時の対応などは主にTFGが担っている。

考察を踏まえて

今後の事業は活動の選択と集中を行い、より一層女の子達のニーズとスタッフの力量に相応したものに展開させていく必要がある。

活動の要である街頭でのアウトリーチ活動やSNSでの相談支援活動は、これまで、多くの若年女性に「私たちのことを知ってもらう」ことに重きを置いてきたが、活動や団体の認知度は少しずつ高まっているため、今後は「女の子のことを教えてもらう」ことに重きを置き、街頭やSNS上での会話を深め、女の子に自分自身のことを教えてもらい、繋がり続ける活動に重点を置いたものにしていきたい。一方で、「私たちのことを知ってもらう」活動も必要であるため、これはSNSにおける広報活動に置き換えていく。シェルターの運営についてはニーズが高いことを痛感したことから、アパート型のシェルターを維持するとともに、ホテルを利用するシェルターの場合は、当団体の負担軽減とホテル代わりの安易な利用を防止するため、他団体が行なっている、女の子に利用料の一部（1000円程度）を負担してもらう方式を導入することで、無理のない活動継続を目指していく。ブルークロス運動については、まずは事業開始前と同じように年２回の開催を目指しつつ、本事業を行う中で獲得したオンライン配信のノウハウを引き続き活用して、参加者アンケートで支援の形として寄付を挙げてくださった方が一定割合いたことから、寄付を呼び掛けるなど支援者の確保に繋げていくことを検討していく。これまで通り参加費を徴収せずに広く大衆に向けた内容の講演会も行うが、関心ある層や支援者向けの勉強会を開催して参加費を募ることも当初の目標にしていたことから、専門的かつ実用性がある小規模の研修会形式での開催も視野に、資金を生む活動も展開していきたい。

ネットワークの構築については、現在は事業開始前に比べ、福岡県内の若年女性支援団体が増加していることから、まずは県内の団体との連携を深め、連携団体を通じて県外の団体にアプローチするなどの方法を検討する。

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

6．結論

6-1　事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
1. 課題やニーズの適切性				○	
2. 課題やニーズに対する事業設計の整合性		○			
3. 事業実施のプロセス		○			
4. 事業成果の達成度		○			

6-2　事業実施の妥当性

上記のなかで重要と思われる点や特筆すべき点を根拠として、事業の妥当性についての考えを自由記載してください。

社会課題やニーズは、事前評価において福岡県警察の統計資料と、実際に非行少年等の処遇を実施している少年院長の研究発表の分析のほか、被支援者である若年女性へのアンケートやインタビュー等から把握されていることから、おおよそ適切だったと評価しているものの、それらに対する、事業設計、実施方法に若干の課題があったように思う。

事業設計については、中間評価でロジックモデルを整理したことは良かったが、その後１年半の経過の中での変化を反映した設計の見直しが不十分であったため（事業の主な柱である女性支援については想定水準にあるものの、広報や連携部分については、取り組んだからこそ見えてきたことではあるものの、より効果的な計画の可能性もあったと思われるため）、上記のとおり評価した。

事業実施プロセスについては、アウトプットの実績のとおりである。時間経過の中で、支援体制や社会状況の変化に対応できず、十分実施できなかった活動も複数あったが、事業の柱である女性支援については、活動を重ねる中で実績を積むことができている。**事業成果の達成度**についても、目標達成に至らなかったアウトカムが複数ある一方で、事業の中核部分である「若年女性への支援活動」は、シェルターに保護した支援対象者については、保護により生活環境が大幅に改善していることや、ＳＮＳによる継続相談者が想定を大幅に上回る成果が出ていることから、事業実施プロセス、事業成果の達成度について「想定した水準までに少し改善点がある」と評価した。

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

7．資料

No.	内容	ページ数
1	事前評価時の短期アウトカム／最新の短期アウトカム	p.38
2	支援対象者へのアンケート　＜様式＞	p.39～40
3	同上　＜結果まとめ＞	p.41～44
4	2021年度シンポジウム終了後アンケート　＜様式＞	p.45
5	同上　＜結果まとめ＞	p.46～p48
6	2022年度シンポジウム終了後アンケート　＜様式＞	p.49
7	同上　＜結果まとめ＞	p.50～53

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

事前評価時の短期アウトカム（事業計画書より抜粋）

(2)短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
①アウトリーチによって若年女性が団体の存在を知り、継続的にサポートを受けることにより、抱えている課題が解決に向かい、安定した生活が構築できている状態になる。	①当事業による支援によって自立した生活を送っている若年女性の数（事例） ②継続的な相談支援を受けている若年女性の数(事例)	年間3名	初期値より10名増加	2023年1月
②福岡県内において、パープルエイドとブルークロス運動が連動して教育・行政・福祉関係者・地域住民を対象とした啓発、講演会活動の実施により、若年被害女性についての理解が深まり、若年被害女性へのサポートを行う個人・団体が増加した状態。	①福岡県内において若年被害女性を支援する団体の数 ②活動の協力団体・協力者（ボランティア）の数	①5団体（行政窓口は含まない） ②協力団体6団体　協力者10名	①初期値より5事業者等増加 ②初期値から　協力団体10団体増加 協力者30名増加	2023年1月
③ブルークロス運動の参加者や各関係機関が（仮）若年被害女性支援について考えるネットワークの会員となり、迅速なつなぎ支援や活動の発展のための勉強会などが開催でき、若年女性に対して円滑な支援を行うことができるシステムが構築されている状態になる。	ネットワークによって支援が円滑に行われた事例	事例なし	初期値より10事例増加	2023年1月

最新の短期アウトカム（事業計画書より抜粋）

(2)短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
①若年女性が継続的なサポートを受けられ，抱えている課題が解決に向かう。	①当事業による支援によって自立した生活を送っている若年女性の数（事例） ②継続的な相談支援を受けている若年女性の数（事例） ③支援活動に「生きづらさの評価指標」が使われるようになる。	①年間3名 ②年間5名 ③「生きづらさの評価指標」未作成	①初期値より10名増加 ②初期値より15名増加 ③すべての支援対象者に「生きづらさの評価指標」が使われるようになる	2023年1月
②地域住民や地域の機関・団体が、若年被害女性の支援の必要性について理解するようになる。	①ブルークロス運動のイベントに参加した人のうち、若年女性への支援について、「（支援の）必要性が理解できた」とした人の割合（定量） ②ブルークロス運動のイベントに参加した人のうち、若年女性への支援に、「自分も何かしら協力したい」とした人の割合（定量）	①0%（若年女性支援のイベント未開催のため） ②0%（若年女性支援のイベント未開催のため）	①アンケートに回答した人の80% ②アンケートに回答した人の50%	2023年1月
③若年女性を支援するネットワークが、地域の中に構築され、支援ノウハウの共有が図られる。	①福岡県内において若年被害女性を支援する団体の数 ②若年女性を支援する活動の協力団体・協力者（ボランティア）の数 ③若年女性支援ネットワークによって支援が円滑に行われた事例 ④関係機関と「生きづらさの評価指針」を共有して支援に当たった事例	①5団体（行政窓口は含まない） ②協力団体6団体　協力者10名 ③事例なし ④「生きづらさの評価指標」未作成	①初期値より5事業者等増加 ②初期値から　協力団体10団体増加 協力者30名増加 ③初期値より10事例増加 ④「生きづらさの評価指針」を関係機関で共有することで円滑な支援ができるようになる（具体的な事例を記載）	2023年1月
④実行団体の知識・スキルが向上し，福岡以外の地域で同様の若年女性支援を行っている他機関と有機的な連携が図れる。	①情報交換会を通じて、当団体の知識やスキルの研鑽を行うとともに、有機的な連携によって県外の女子からSNS等で相談があった場合、当該女子が住む地域の最寄りの支援団体を紹介することができるようになる。	①情報交換会は未実施	情報交換会を通じて、当団体及び協力団体の知識やスキルがアップするとともに、全国の若年女性支援団体と実際の支援の場面でも連携・協力できる関係になる。	2023年1月

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

みなさんへのアンケート（Google フォームにて調査）

いつも私たちに相談を寄せてくれてありがとうございます。
みなさんに、私たちに相談をしてみて感じていることを聞いてみたいと思いますので、アンケートに答えて頂けると嬉しいです。
みなさんから頂いた回答は、今後の女の子の支援のために活用させて頂きます。
※個人が特定できないように匿名で受け付けています。

Q1.現在もパープルエイドに相談をしていますか？
- 現在も相談している
- 現在は相談していない

Q2.「現在は相談していない」と答えた方に質問です。現在、相談していない理由はなぜですか。※複数回答可
- 質問したいことが解決されたから
- パープルエイドの対応が良くなかったから
- 違う相談機関に相談をしているから
- 特に理由はない
- その他（自由記述）

Q3.支援を受けていた期間はどれくらいのですか*
- 1週間程度
- 1ヶ月程度
- 3ヶ月程度
- 半年程度
- 1年程度
- 1年以上

Q4.どのようにしてパープルエイドを知りましたか？*
- 街中で相談カードを渡された
- SNS の投稿を見た
- HP を見た
- 学校などでポスターをみた
- 友達に紹介された
- 覚えていない
- その他（自由記述）

Q5.主にどのような相談をしましたか？※複数回答可
- 家族のこと
- 学校のこと
- 友人関係のこと
- 仕事のこと
- 性のこと
- 気持ちのこと
- その他（自由記述）

Q6.パープルエイドからどのような支援を受けていましたか*
- SNS での相談
- 対面での相談
- 保護をしてもらった
- その他（自由記述）

Q7.相談をした内容は、相談したことで改善、もしくは解決されたと感じますか？
- 改善、もしくは解決したと感じる
- 少し改善、もしくは少し解決したと感じる
- わからない
- あまり改善、もしくはあまり解決したと感じない
- 改善、もしくは解決したとは感じない

Q8.パープルエイドの対応でよかったところはどんなところでしたか※複数回答可
- 話をよく聞いてくれた
- アドバイスが的確だった
- すぐに返信をしてくれた
- その他（自由記述）

Q9.パープルエイドの対応でよくなかったところところはどんなところでしたか※複数回答可
- 話を聞いてくれなかった
- アドバイスが良くなかった
- 返信に時間がかかっていた
- その他（自由記述）

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

Q10.パープルエイドに期待したいことはありますか。（複数回答可）
- とにかく話を聞いてほしい
- 直接会って話を聞いてほしい
- 具体的な解決策をアドバイスしてほしい
- 解決してくれる人や団体につなげてほしい
- 保護をしてほしい
- 特にない
- その他（自由記述）

Q11.誰かにパープルエイドを紹介しようと思いますか？
- 紹介したい
- 紹介したくない

Q12.あなたの年代を教えてください
- ～15歳
- 16歳～17歳
- 18歳～20歳
- 21歳～25歳
- 26歳以上

Q13.学校や仕事に行っていますか
- 学校に所属している
- 学校に所属しているが不登校
- 仕事をしている
- 仕事はしていない
- その他（自由記述）

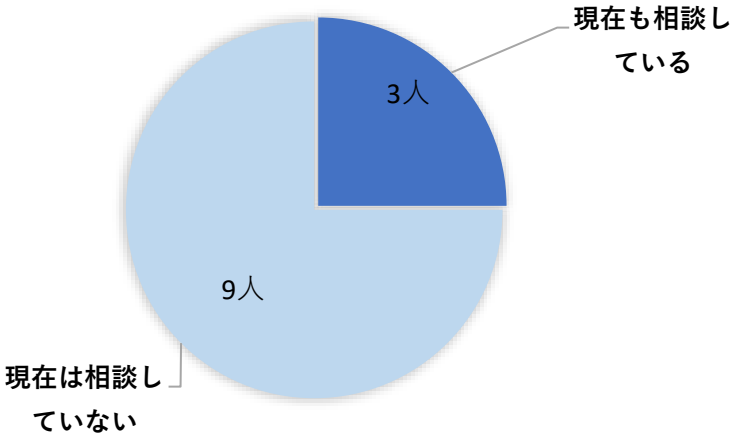
Q14.誰と住んでいますか？
- ひとり暮らし
- 家族と同居
- グループホーム・施設等
- シェアハウス
- 家はない
- その他（自由記述）

アンケートは以上になります。ご協力ありがとうございました。

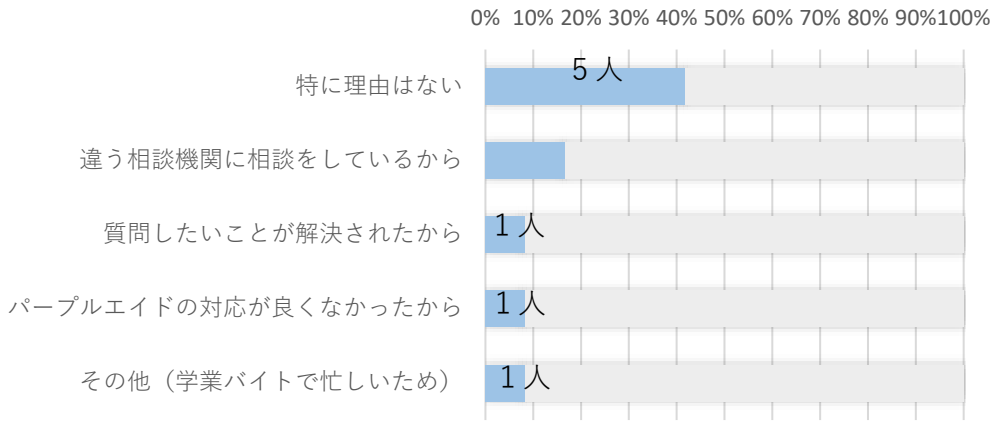
Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

被支援者へのアンケート結果

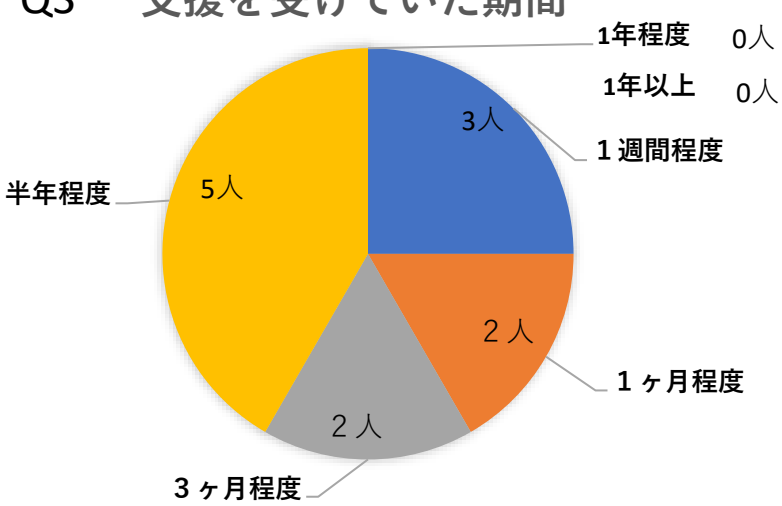
Q1 相談を継続している人数



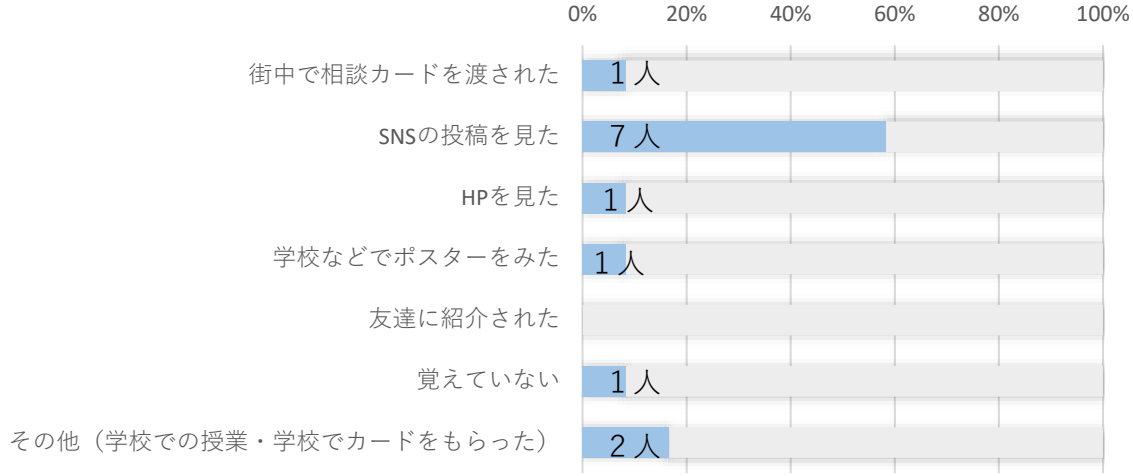
Q2　相談を継続していない理由（複数回答可）



Q3　支援を受けていた期間

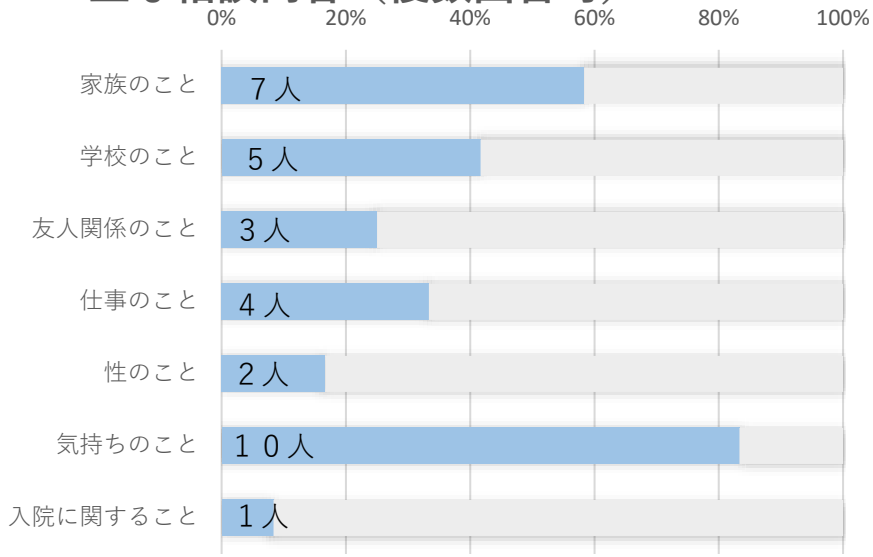


Q4　パープルエイドを知ったきっかけ（複数回答可）

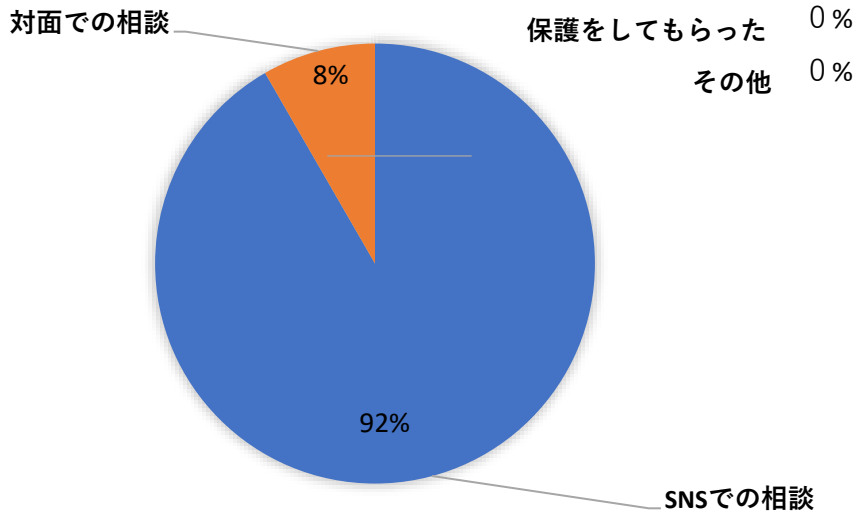


Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

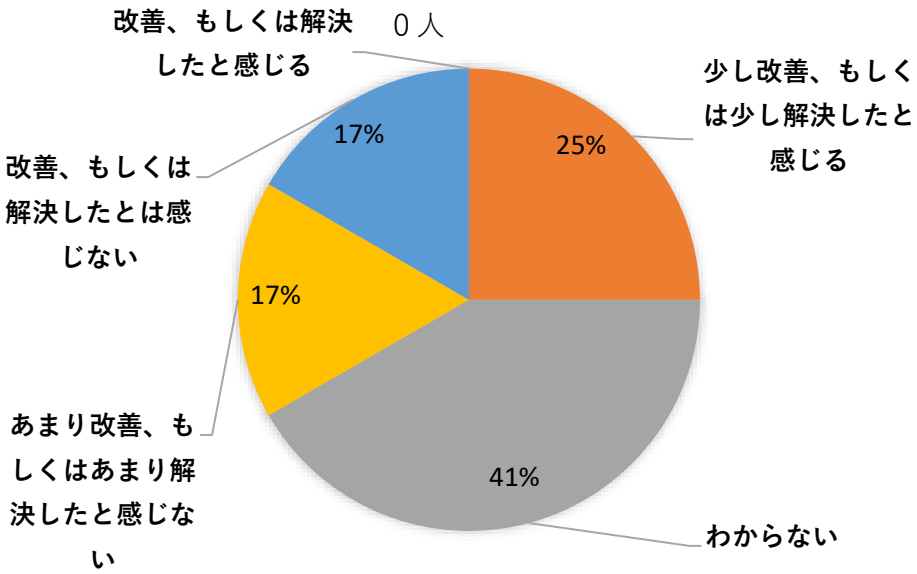
Q5　主な相談内容（複数回答可）



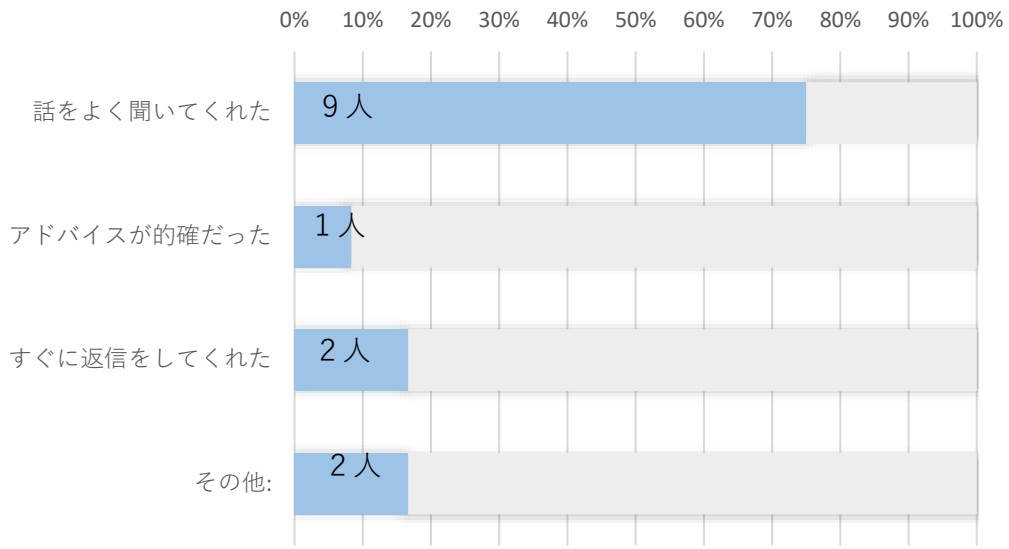
Q6　パープルエイドからどのような支援を受けたか



Q7　相談したことで相談した内容は改善・解決したと感じるか

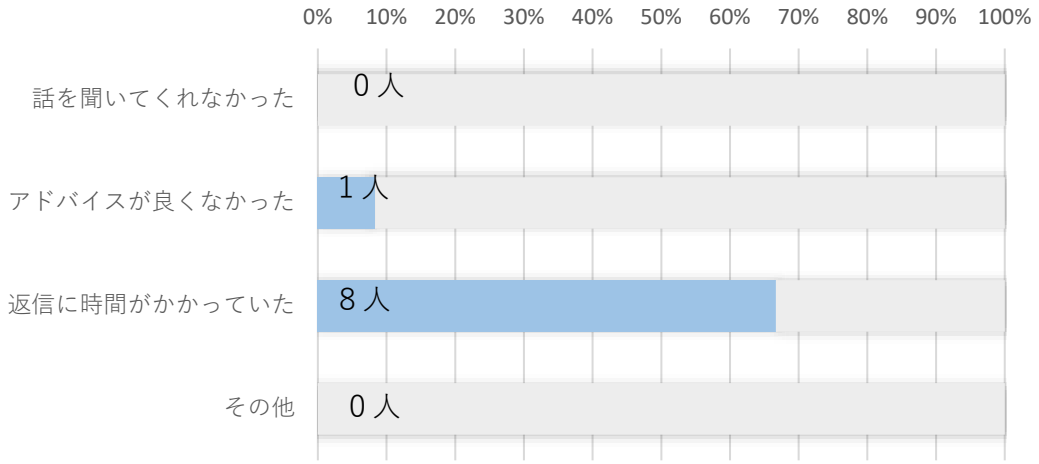


Q8　パープルエイドの対応でよかったところ（複数回答可）

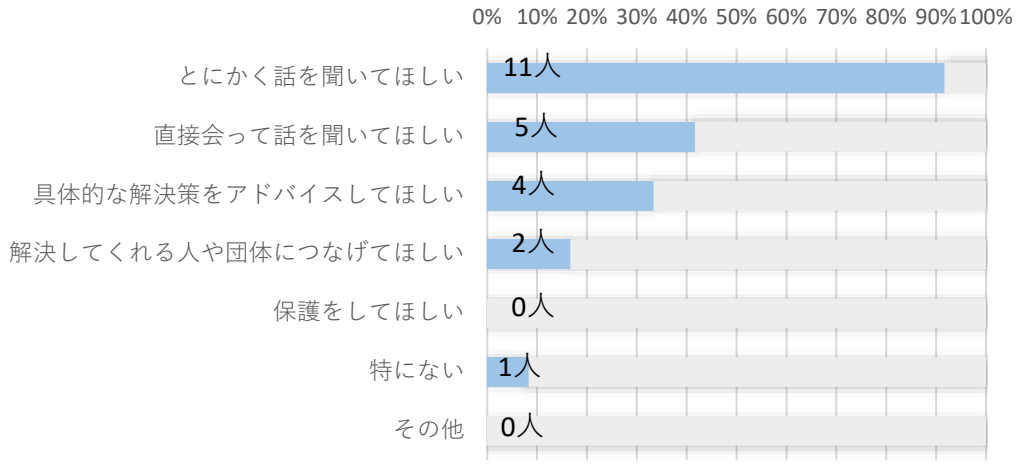


Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

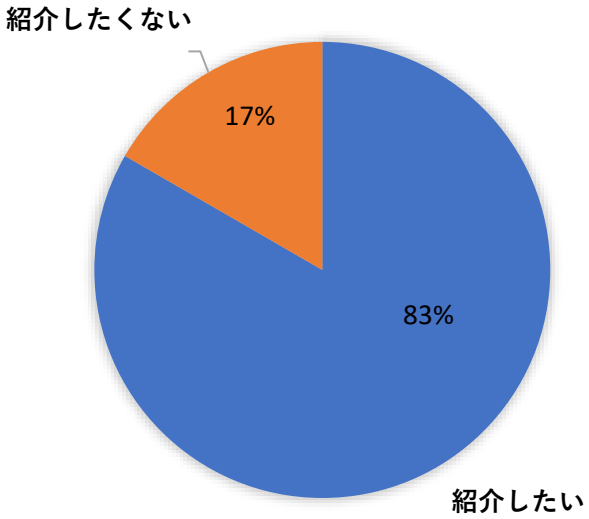
Q9　パープルエイドの対応でよくなかったところ（複数回答可）



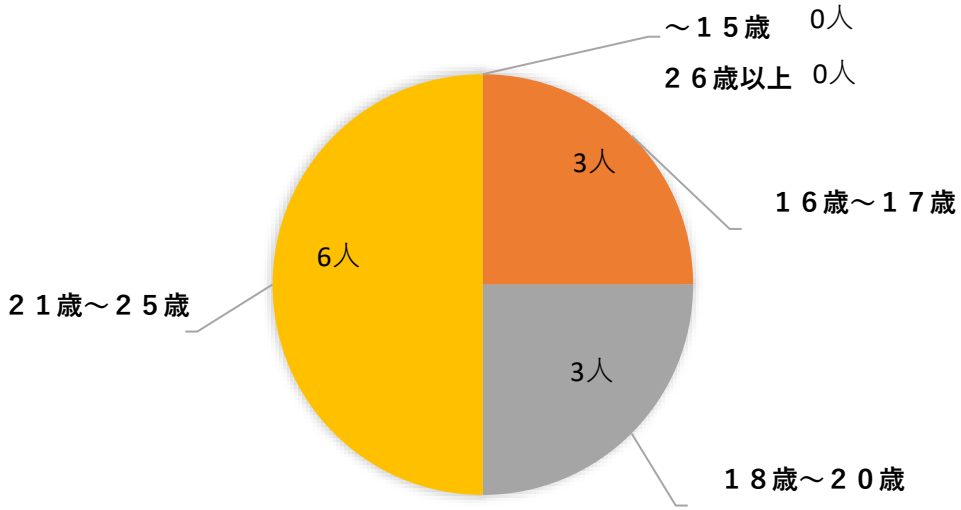
Q10　パープルエイドに期待したいこと（複数回答可）



Q11 パープルエイドを誰かに紹介したいと思うか

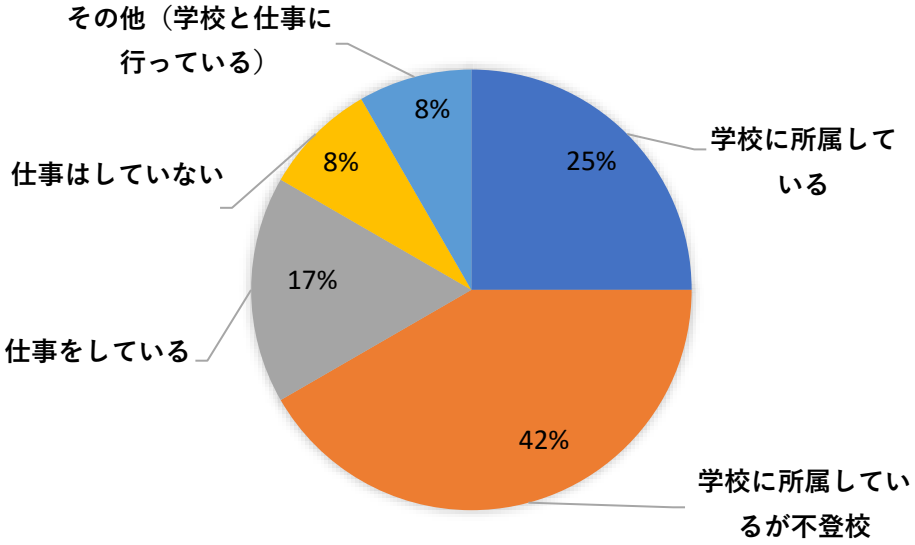


Q12　アンケート回答者の年代

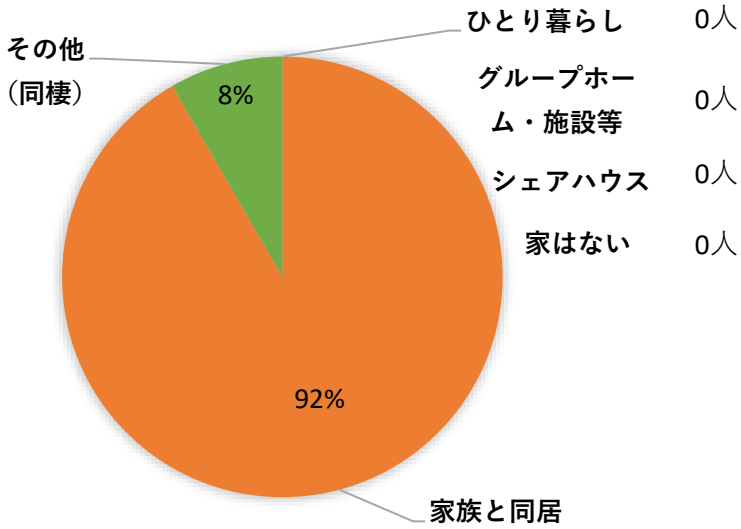


Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

Q13　学校や仕事に行っているか



Q14　誰と一緒に住んでいるか



Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

#ガールズソーシャワーク若年女性支援の最前線より シンポジウム終了後アンケート（Google フォームにて調査）

Q1.本日のシンポジウムをご覧になる前から各団体についてご存知でしたか？(複数回答可)

母子生活支援施設百道寮を知っていた
自立援助ホームリーブを知っていた
パープルエイドを知っていた

Q2.本日のシンポジウムをご覧になって若年女性への支援についてどのように感じられましたか？

若年女性支援の必要性が、よく理解できた
若年女性支援の必要性が、少し理解できた
若年女性支援の必要性について、あまり理解できなかった
若年女性支援の必要性について、全く理解できなかった

Q3.本日のシンポジウムをご覧になって若年女性への支援について、あなたご自身の意識に変化はありましたか？

生きづらさを抱える若年女性への意識の変化が、とてもあった
生きづらさを抱える若年女性への意識の変化が、少しあった
生きづらさを抱える若年女性への意識の変化は、あまりなかった
生きづらさを抱える若年女性への意識の変化は、全くない

Q4.あなたご自身(またはあなたの所属団体)は、若年女性支援に関わりたい・協力したいと思われますか？

ぜひ協力したい
できることがあれば協力したい
どちらでもない
あまり協力したくない
全く協力したくない

Q5.前の質問で、『ぜひ協力したい』『できることがあれば協力したい』を選んだ方にお伺いします。具体的にどのような形での協力をお考えでしょうか。(複数回答可、選択肢にない場合はその他にご記入ください)

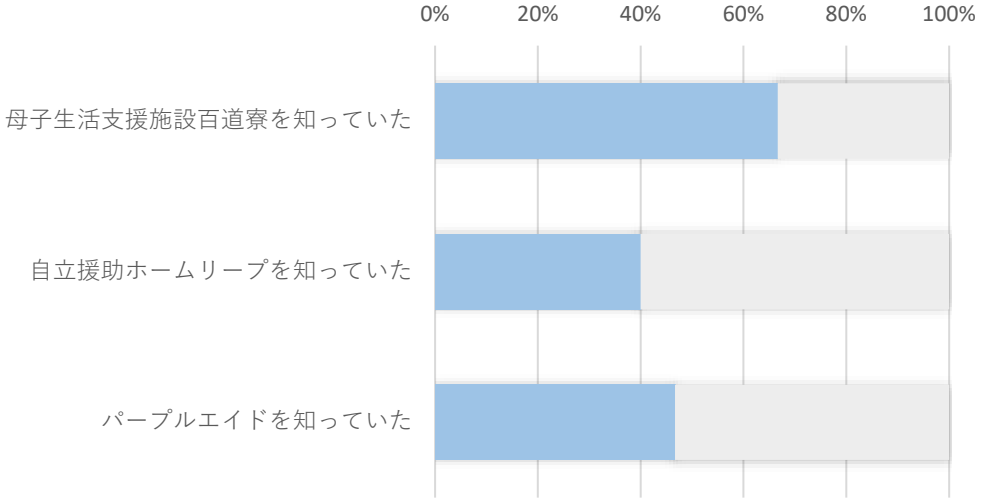
支援団体に寄付をする
ボランティアとして参加する
物品等を寄付する
自団体での支援提供を検討する(例:宿泊場所、食事、就労機会、教育機会の提供等)
アウトリーチ活動に参加する
広報に協力する(広報誌等への記事、掲示板等の提供等)
その他（自由記述）

Q6.本日のシンポジウムをご覧になってご感想、ご意見等を自由にお書きください。

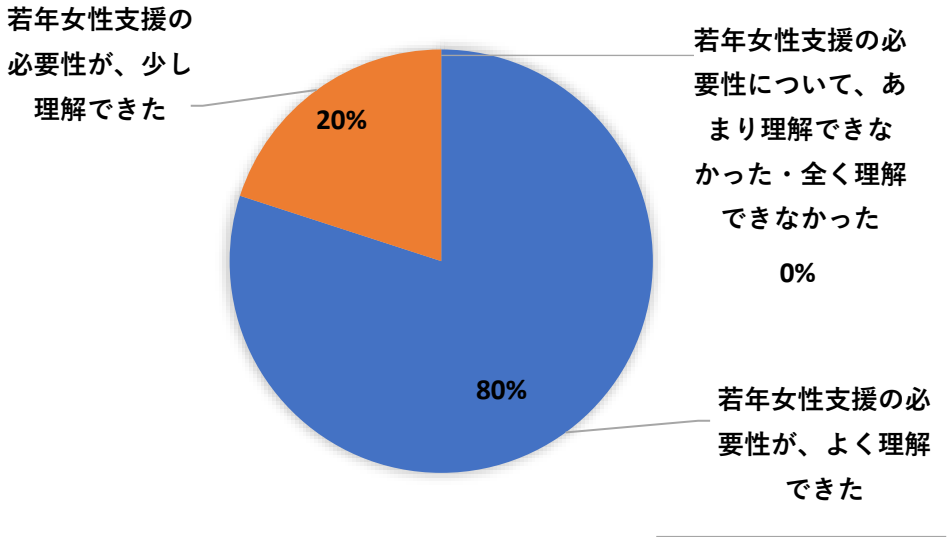
Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

2021年度　#ガールズソーシャワーク若年女性支援の最前線より　シンポジウム終了後アンケート結果

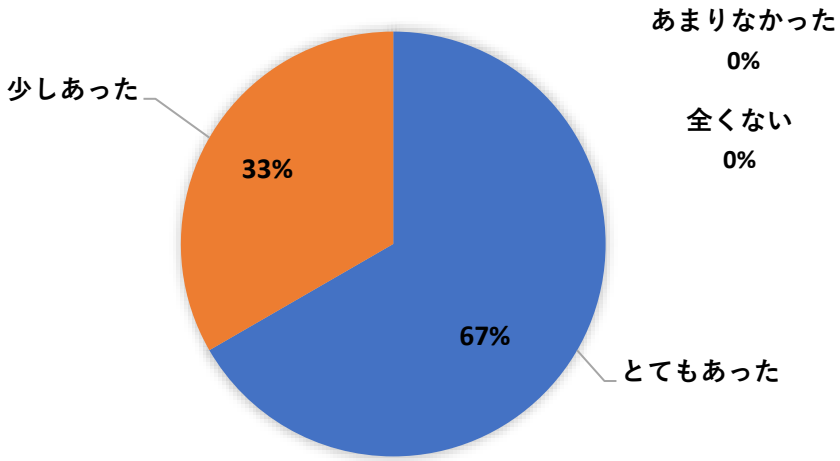
Q1　シンポジウム前の各団体の認知度（複数回答可）



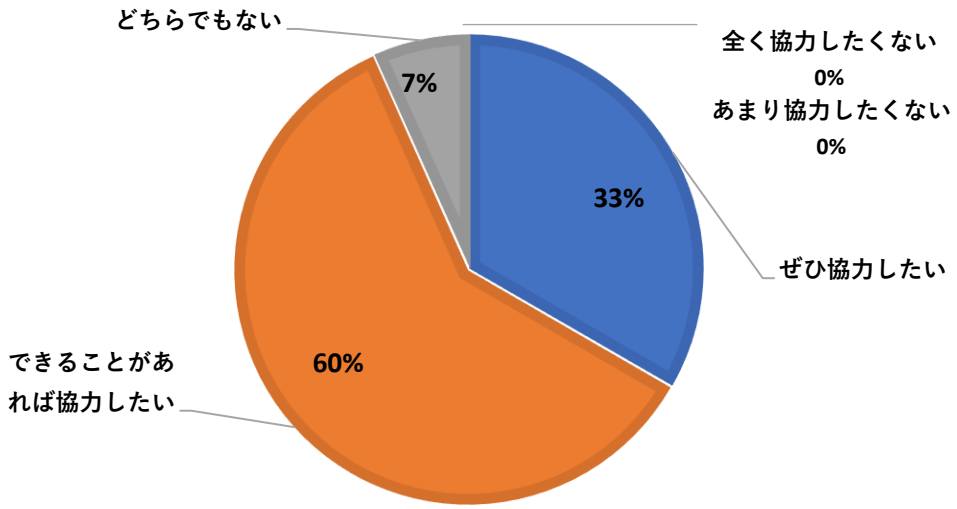
Q2　若年女性への支援の必要性の理解度



Q3　若年女性支援への意識変化

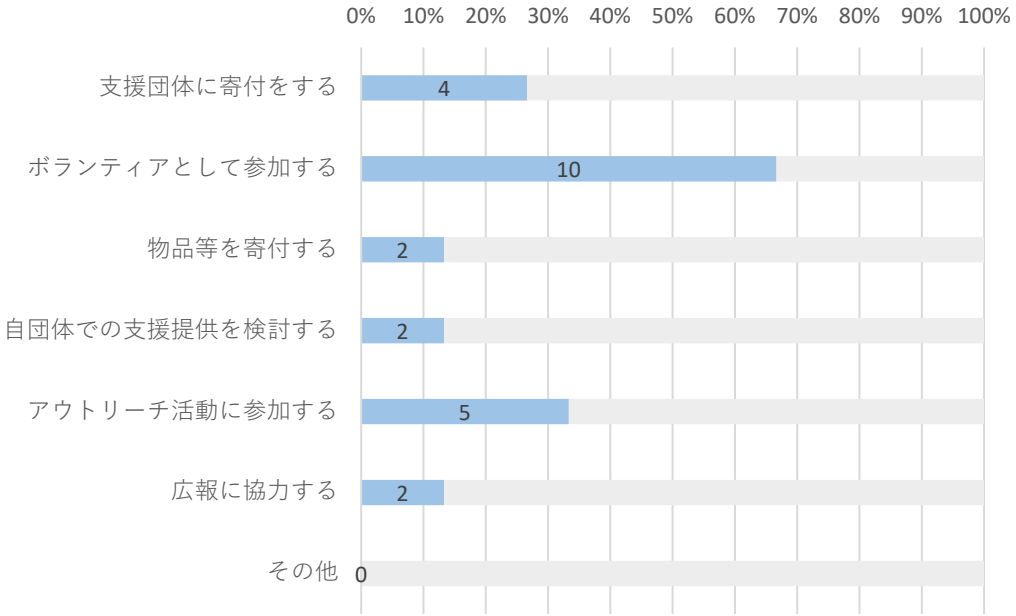


Q4　若年女性支援に関わりたい・協力したいと思うか



Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

Q5　考えられる協力方法（「ぜひ協力したい」「できることがあれば協力したい」と答えた14人中・複数回答可）



Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

感想（自由記述）

・初めて知ることが多くて凄く勉強になり、もっと知りたいと思いました。

・女性特有の課題などまだまだたくさんの課題があることが分かりました。また、特定妊婦や非行少年など世間から切り離されることが多い方たちを支援するにはたくさんの機関の協力が必要不可欠だと感じました。

・自分もボランティアに参加したいと思った

・子どもなら支援団体や母を守るための仕組みがこういう形であることを初めて知りました。とても興味深い話が聞けていい機会になりました。

・動画視聴したが、聞こえにくい部分が多く残念だった。希望を感じられる話も聞きたかった。

・とても勉強になりました。自分でも考えていきたいです。

・若年女性への支援での課題が難しいことをよく理解できました。話を聞くことができ、良かったです。

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

#ガールズソーシャワーク～生きづらさを生み出す社会の課題とこれから

の支援～　講演会終了後アンケート(Google フォームにて調査)

Q1.あなた様の年代を教えてください
- 10代
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代
- 70代以上

Q2.性別
- 男性
- 女性
- 答えたくない

Q3.所属
- 学生
- 教員
- 保護司
- 更生保護女性会員
- 福祉関係者
- 一般の方
- その他（自由記述）

Q4.以前からパープルエイドについてご存知でしたか？
- 知っていた
- 知らなかった

Q5.講演会の内容はいかがでしたか*
- 理解できた
- やや理解できた
- あまり理解できなかった
- 理解できなかった

Q6.本日の講演会をご覧になって若年女性への支援の必要性についてどのように感じられましたか？
- 若年女性支援の必要性が、よく理解できた
- 若年女性支援の必要性が、少し理解できた
- 若年女性支援の必要性について、あまり理解できなかった
- 若年女性支援の必要性について、全く理解できなかった

Q7.本日の講演会をご覧になって若年女性への支援について、あなたご自身の意識に変化はありましたか？
- 生きづらさを抱える若年女性への意識の変化が、とてもあった
- 生きづらさを抱える若年女性への意識の変化が、少しあった
- 生きづらさを抱える若年女性への意識の変化は、あまりなかった
- 生きづらさを抱える若年女性への意識の変化は、全くない

Q8.あなたご自身(またはあなたの所属団体)は、若年女性支援に関わりたい・協力したいと思われますか？
- ぜひ協力したい
- できることがあれば協力したい
- どちらでもない
- あまり協力したくない
- 全く協力したくない

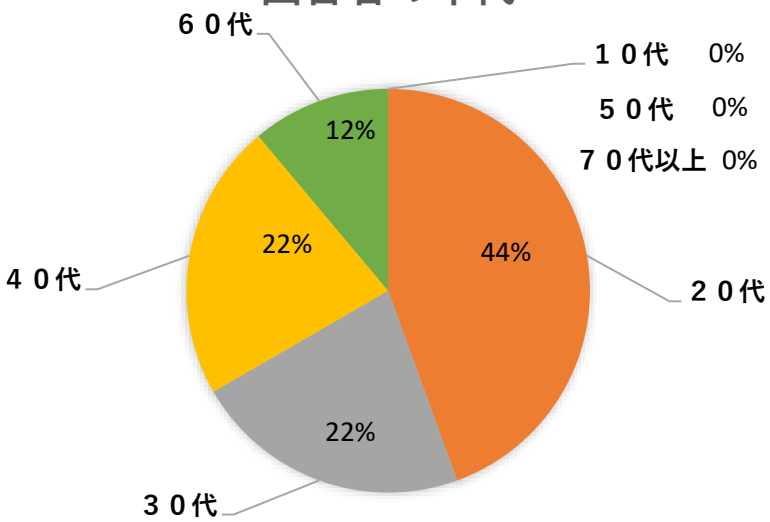
Q9.前の質問で、『ぜひ協力したい』『できることがあれば協力したい』を選んだ方にお伺いします。具体的にどのような形での協力をお考えでしょうか。(複数回答可、選択肢にない場合はその他にご記入ください)
- 支援団体に寄付をする
- ボランティアとして参加する
- 物品等を寄付する
- 自団体での支援提供を検討する(例:宿泊場所、食事、就労機会、教育機会の提供等)
- アウトリーチ活動に参加する
- 広報に協力する(広報誌等への記事、掲示板等の提供等)
- その他（自由記述）

Q10,本日のシンポジウムをご覧になってご感想、ご意見等を自由にお書きください。

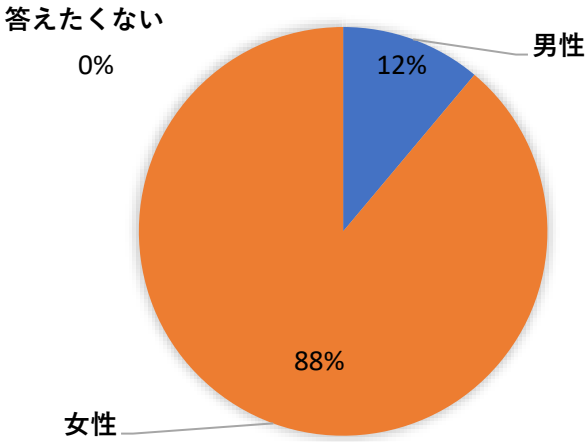
Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

2022年度　#生きづらさを生み出す社会の課題とこれから　シンポジウム終了後アンケート結果

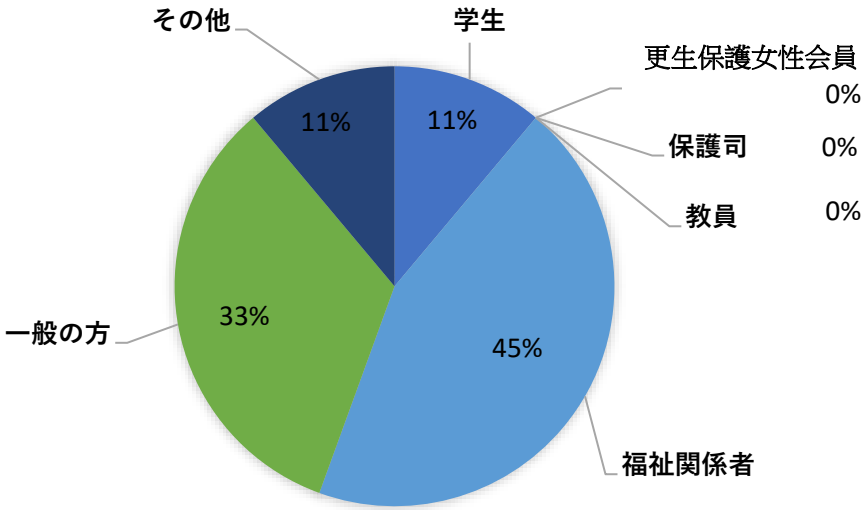
Q1　回答者の年代



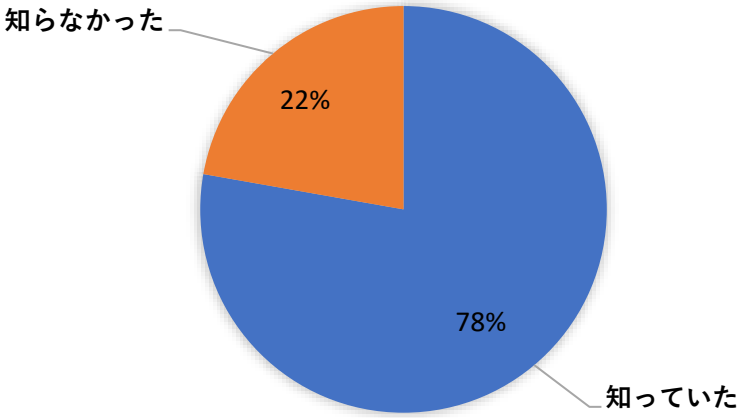
Q2　回答者の性別



Q3　回答者の所属

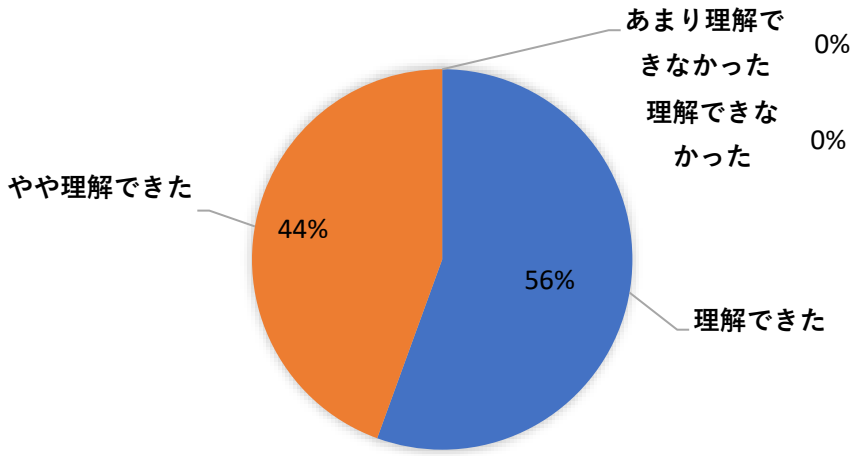


Q4 以前からパープルエイドを知っていたか

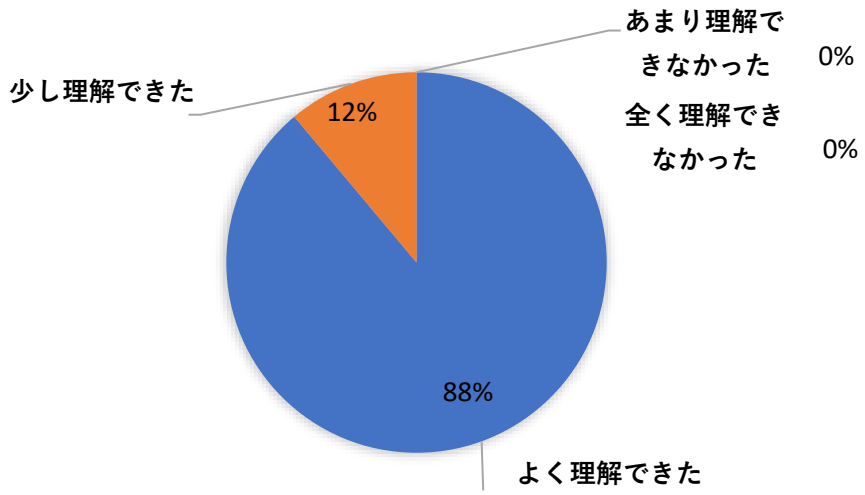


Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

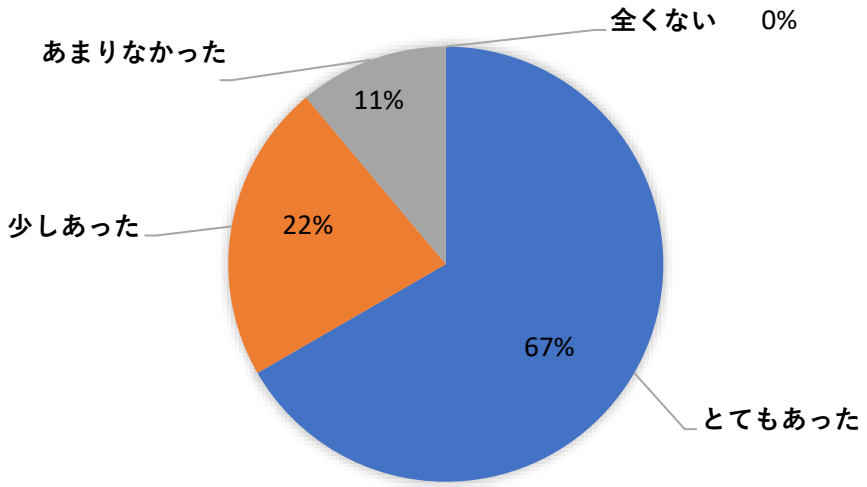
Q5　講演内容の理解度



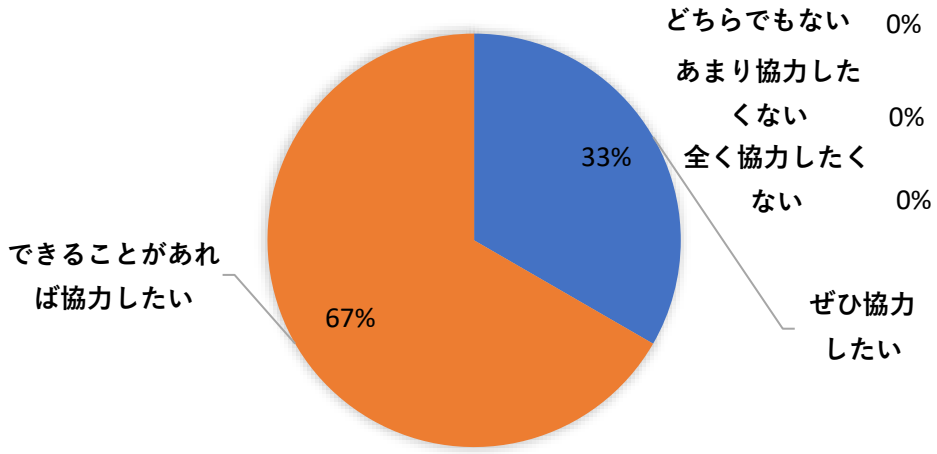
Q6　若年女性への支援の必要性への理解度



Q7　若年女性支援に対する意識の変化

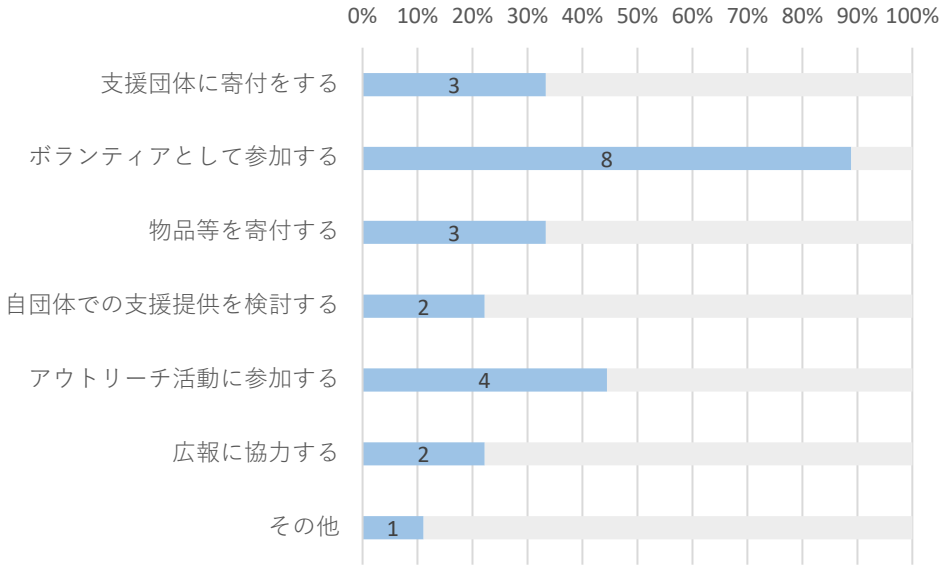


Q8　若年女性支援に関わりたい・協力したいと思うか



Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

Q9　考えられる協力方法(複数回答可)



Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。

シンポジウムの感想・意見（自由記述）

・子どもたちの問題行動ばかりに目がいきがちだが、その背景には、社会問題が潜んでおり、社会が解決すべき課題だと思った。子どもたちが問題行動を通じて、なにか訴えているのなら、そのSOSに気づくことが必要だ。今回の講演会を通して、さらに子どもの支援について理解を深めることができた。

・先日のNHKプロフェッショナル仕事の流儀で、初めて堀井智帆さんを知りました。それからフェイブックで友達になっていただき、このシンポジウムを知りました。大人の庇護を受けることなしに育つことは、本当に過酷なことですね。それをまた若い方が支援していらっしゃることを知り、感動しました。
　私は元保育士なので、こんなに大変な思いをするお子さんに出会うことはありませんでしたが、やはり中には深刻な状況にあるご家庭に触れることもあり、一家庭の中だけで解決するのは無理だと思いました。
　またこんなに大変な状況ではありませんでしたが、両親が不仲でその問題に子どもの頃から巻き込まれ、自分の人生を生きられなかった自分自身の問題もあり、他人事には思えません。
　高齢の母の介護のこと、私自身が非課税世帯であることから、寄付も難しくはありますが、何らかの形でお力になれることがあればと思います。
　本日は貴重なお話をありがとうございました。

・若年女性のケアをしていたころ気にかかっていたことが明確になった。今後支援に関わることがあれば、生かしていきたいと思います。

・仕事をしながら、若年女性に対してアウトリーチをして、困っている人を必要な支援に繋げる姿は、本当に素晴らしい事だと感じました。これからも、応援しています。

・少しでも出来ることがあれば、協力したいと感じた。

Copyright 2023 TFG　※本資料の内容を当団体に許可なく複製・転載・転用することは禁止いたします。